

令和4年度

事業報告書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要	1
----------------------	---

第2 公 益 目 的 事 業

I. 事 業 総 括	3
〔1〕管 理 施 設	3
〔2〕主 な 実 施 事 項	3
II. 事 業 実 績	20
〔1〕飼 育 ・ 展 示 事 業	20
〔2〕野 生 生 物 保 全 事 業	35
〔3〕教 育 普 及 事 業	37
〔4〕市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	62
〔5〕利 用 者 サ ー ビ ス	71
〔6〕安 全 ・ 安 心 の 確 保	79
〔7〕受 託 業 務	84

第3 収 益 事 業

I. 事 業 総 括	86
II. 事 業 実 績	87
〔1〕便 益 施 設 の 経 営	87
〔2〕そ の 他 の 事 業	90

第4 決 算 概 要 91

第5 事 務 報 告

I. 役 員 会 議 の 開 催	92
II. 監 査	93
III. 人 事 関 係	94
IV. 組 織 概 要	98

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要

令和4年度は、ジャイアントパンダ来園50周年及び「シャンシャン」の返還、井の頭自然文化園開園80周年を迎えた年であった。

また、新型コロナウイルス感染症の脅威が続く状況下ではあったが、お客様に安心して来園いただけるよう、引き続き感染防止対策を徹底したことにより、新型コロナウイルスで臨時休園をすることはなく、着実な管理運営ができた。これにより4園合計の入園者数は約578万人となり、前年比で約400万人増加するなど、多くのお客様をお迎えすることができた。

しかしながら、令和5年2月に多摩動物公園において飼育鳥のツクシガモとソデグロヅルが高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染していることが判明し、その後53日間にわたる臨時休園となった。飼育鳥の感染は、都立動物園・水族園では初めてのことであったこともあり、経験したことのない厳しい状況であったが、協会としての創設時からの使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」のため、長年培ってきた技術・経験を土台とし、各園の個性を発揮して、我が国の動物園・水族館の先導役としての役割を果たすべく、以下の5つの取り組みを積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

4園が緊密に連携し展示動物の適正な飼育管理や展示の充実を図った。また、飼育技術の更なる発展に取り組むとともに、動物福祉に配慮した管理手法を実現することにより、人にも動物にも安全で魅力的な飼育展示を推進した。さらに4園で得られた野生生物に関する知見を国内外で積極的に発信するほか、大学や研究機関との共同研究を推進するなど、高度な飼育技術の継承・発展を図るとともに、動物福祉の向上の取り組みを行った。

【主な取り組み】

- ライチョウやペンギン類、自然交配が困難な状況に置かれたチンパンジーなどの繁殖のため、人工授精や人工育雛などへの取り組みを実施
- ジャイアントパンダ「シャンシャン」の返還、新キリン舎の完成と個体移動・展示の開始、「サンゴ礁の海」のオープン など

2 「第2次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が役割分担し、計画的な野生生物の保全活動を展開した。

また、令和3年度「東京動物園協会野生生物保全基金」に新設した「保全パートナー部門」においては、保全に取り組む研究者との連携をさらに強化し、保全活動に取り組んだ。

【主な取り組み】

- ニシゴリラ、ルリカケス、チンパンジー、トキ、オウサマペンギン、フンボルトペンギン、ウミガラス、エトピリカ、アムールヤマネコ、ニホンカモシカなど希少動物の繁殖
- 上野動物園が希少種の保護や増殖について一定基準を満たし、「希少種保全動植物園等」の認定を取得 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

4 園ともに新型コロナウイルス感染症による行動制限が解除されたことを受け、感染防止対策を徹底した上で、対面のイベントや講演会、各種ガイドを再開した。また、コロナ禍で工夫して行ってきた Twitter や東京ゾーンネットを利用した情報発信、オンライン参加型のイベントによる普及啓発も継続して行った。

【主な取り組み】

- オンライン発信基地として様々な発信機材や教材等を備えた「UENO ZOO STUDIO」のオープン
- ウミガラスについてパートナー協定を締結している羽幌町と「つどえ オロロ〜ン！」と題したオンライン講演会やパネル展を共催で実施 など

4 魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービスを提供する「利用者サービス」

入園券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進するとともに、5Gの先端技術を活用したサービス等による利用者満足度の向上を図った。また、魅力的なオリジナル商品や快適な店舗環境、接客力向上により多様な来園者の期待に応えるとともに、通信販売の拡充及び園外販売の更なる活性化に努めた。

【主な取り組み】

- 来園者の安全・快適な観覧のために、上野動物園において混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」の対象エリア拡充
- 「都立動物園・水族園 SDGs デジタルクイズラリー」の実施
- 上野動物園では、ジャイアントパンダ来園 50 周年を記念した WWF とのコラボ商品やジャイアントパンダの仔「シャオシャオ・レイレイ」の関連商品の開発 など

5 危機管理対策や万全な施設管理による「安全・安心の確保」

お客様に安心して来園していただけるよう、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底に努めた。

また、2月に発生した高病原性鳥インフルエンザウイルスに対して、関係部署と連携し、迅速かつ的確な防疫措置を講じ、終息に向けて職員一丸となって対応した。

さらに、地震などの自然災害や無差別テロ等を想定した訓練を3年ぶりに実地開催するとともに、動物舎や樹木等の的確な管理に努め、お客様の安全・安心の確保を図った。

【主な取り組み】

- 滞留人数管理方式による入園制限を継続して実施するとともに、入園前の検温、消毒の徹底、店舗での飛沫感染対策シート等の感染防止対策を実施
- 施設、設備や樹木等の定常的な維持管理に加え、ナラ枯れ処理やベンチ座板補修などの緊急的な維持管理を実施 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、市民・団体との協働に関する業務、利用者サービスに関する業務、安全・安心の確保に関する業務及び受託業務を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積（㎡）	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	144,040.513	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	601,372.54	うち無料開園区域 77,508.22㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【新型コロナウイルス感染症対策】

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、滞留人数管理方式による園内の混雑緩和を図った。また、検温や手指消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンス確保への協力をお願いするとともに、飛沫感染対策シートやアクリル板の設置など、安心して動物園・水族園を楽しんでいただくための感染防止対策を講じた。一方で、日々の業務を継続するために、職員の感染防止にも細心の注意を払い、手洗い、手指消毒、マスク着用などの基本的な感染防止対策を徹底するとともに、オンライン会議の積極的な活用、テレワークや時差勤務の推進、執務室の分散等を実施した。

【「地球環境保全行動戦略」の策定】

12月に都立動物園・水族園における地球環境保全に向けた率先行動の指針として「地球環境保全行動戦略」を策定し、公表した。この戦略に基づき、今後4園の重要な役割である生物多様性保全の取組を推進するとともに、事業運営全般において地球環境への負荷を低減させる取り組みを率先して行い、地球環境保全の意義を広く都民などに伝えていく。

【動物の飼育・展示】

展示動物の適正な飼育管理と魅力的な展示の充実に向け、4園間の密接な連携のもと、飼育展示業務を着実に実施した。また、飼育下でのトレーニングや各種エンリッチメントの実施、飼育環境整備など、動物福祉の向上に向けた取り組みを行った。

高度な飼育繁殖技術の継承・発展を目指し、各園で教育普及・飼育展示研究会等を定期的に開催した。国内外の会議・学会・研究会等はオンライン開催が多かったが、積極的な参加を通じて各方面の専門家との人的・技術交流や最新の知識や技術の向上に努めた。

第2次都立動物園マスタープランの下位計画として、各園の取り組みの方向性や具体的な内容を取りまとめた基本方針・教育普及計画・飼育展示計画の作成を進めた。

12月には、WAZA2023 アニマルウェルフェア・ゴール（世界動物園水族館協会2023年動物福祉目標）に向けた日本動物園水族館協会（JAZA）の取り組みのひとつである「動物福祉評価員研修」が上野動物園にて行われ、4園の評価員候補者が受講した。また、令和3年3月に策定した「動物飼育展示に関する倫理・福祉ポリシー」に基づき、各園飼育展示課に動物福祉事務担当を配置するとともに、協会内に「動物福祉委員会」を設置した。

【野生生物の保全】

野生生物保全センターを中心に、内外の諸機関とも連携し、各園で希少種等の保全活動を推進した。

上野動物園におけるニシゴリラの繁殖や多摩動物公園におけるチンパンジーの人工授精による初めての出産をはじめ、ライチョウ、トキ、オウサマペンギン、アムールヤマネコ、ムサシトミヨなど、ブーストック種及び保全対象種のうち47種が4園で繁殖した。

「第二次ブーストック計画」の対象種124種については、飼育繁殖や保全、教育普及等の取り組みを一層推進し、その進捗状況に関しての評価検証を行った。令和4年度については34種について、ブーストック計画推進ハンドブックを作成した。対象種のうち、これまでに累計で77%について飼育繁殖の計画に沿った取り組みを進め、着実に計画を推進している。

希少種の保護や増殖について一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が認定する「認定希少種保全動植物園等」制度では、令和2年度に認定された葛西臨海水族園・井の頭自然文化園に続き、8月12日付で上野動物園が「希少種保全動植物園等」の認定を受けた。

「東京動物園協会野生生物保全基金」では、野生生物の保全に取り組む個人・団体の支援を目的とした助成対象活動を公募し、助成金の交付を行うことにより、固有事業としての保全活動を推進した。

【教育普及】

教育普及センターを中心として4園が連携しながら、動物の行動や形態、野生生物の保全活動、観察の方法など、多様なテーマに基づく教育普及活動を実施した。昨年度に引き続き、TwitterやYouTube、Instagramなど、SNSごとの特性に合わせた情報発信を強化するとともに、ウェブ会議サービスを活用した講演会やワークショップなどを実施し、積極的な教育普及プログラムを展開した。

また、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和や感染状況を見ながら、徐々に対面によるイベントを再開するとともに、対面とオンライン併用のハイブリッド形式による開催方法も取り入れた。休止していたふれあいプログラムについては、感染予防対策だけではなく、動物福祉との両立のため、各園の担当者がワーキンググループをつくり、試行を重ねながら実施方法の見直しを行った。

障害のあるお子様とご家族を招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ブー&アクアリウム in Tokyo」を3年ぶりに実開催した。

学校教育との連携を強化するために、教員を対象とした各種プログラムを開催するとともに、児童や生徒等を対象とした学習プログラムや学習補助教材の貸出し・提供等を行った。また、昨年度に引き続き、中高生を対象に動物園・水族園での観察レポートを募集する「動物園・水族園レポートチャレンジ」を実施した。

生き物について楽しみながら学ぶことができるコンテンツ「東京 Zoovie Maps & Tours」においては、小学生向けの観察ポイント動画「ここみてね！」を9編追加し、内容の充実を図った。

【利用者サービス】

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するため、入園券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進した。また、KDDI株式会社との5G等を活用した事業の実施に関する基本協定に基づき、令和3年6月から開始している上野動物園内の混雑状況をホームページ上で知らせる「上野動物園混雑マップ」のサービスでは、新たに「ゴリラ・トラの住む森」エリアにおける混雑状況の提供を開始した。

若手職員を中心に構成するサービス向上委員会では、引き続き外部有識者の意見を取り入れながらサービス向上策の検討を進め、4園の見所を伝えるデジタルマップの充実、Instagram公式アカウントの計画的な運用、新たな観察誘導ツールの導入、外部連携のあり方検討、施設整備プロセスの見直しなどの取り組みを実施した。

収益部門においては、地球環境への負担軽減の取り組みとして、紙製ショッピングバッグを有料化した。

また、各園の企画と連動し、SDGsに配慮したギフト商品・フードメニューの開発及び販売を行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各園の運営におけるリスク管理として日常的な感染防止対策を徹底し、安定した事業継続のための危機管理に努めた。

震災・テロ対策に関する職員の防災意識と知識向上のための防災マニュアル「東京Zoo防災」については、新規採用職員への配布及び研修を行うとともに、マニュアルの内容に基づいたeラーニングを実施した。また、感染拡大防止のため実施を見送っていた初動対応訓練を実地開催し、基本的な初動対応の手順について改めて確認したほか、上野では猛獣と飼育員が檻の中で同場した場合を想定した机上訓練を実施し、葛西臨海水族園・井の頭自然文化園ではテロ対策訓練を実施した。

施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで園内の安全で快適な環境を確保した。台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、入園者への影響を未然に防いだ。また、施設係と飼育展示係の協力体制に基づく情報共有を通じて、事故を未然に防ぐための施設補修等を適切に実施した。

令和5年2月に多摩動物公園の飼育鳥類に高病原性鳥インフルエンザが発生し、令和5年2月16日から4月9日まで臨時休園となった。このことを踏まえ、各園における鳥インフルエンザ対策を速やかに見直し、防疫体制を強化した。また「動物事故・感染症対策部会」により、対応の経過及び課題の共有、東京都及び関係機関との調整を行い、再開園に向けた準備を進めた。

情報セキュリティ対策については、職員対象のeラーニングを実施するとともに、セキュリティワイヤー等の点検を実施し、ソフトとハードの両面からの強化を図った。また、「情報セキュリティ外部監査」を実施し、緊急連絡体制等の再認識等、職員のセキュリティ意識を向上させた。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

2017年に誕生したジャイアントパンダ「シャンシャン（メス）」は、コロナ禍で5回にわたり返還時期が延期されたが、2月21日に中国への返還を果たした。また、2021年に繁殖した「シャオシャオ（オス）」と「レイレイ（メス）」は、3月20日に母親の「シンシン（メス）」との母子分離を完了した。

アジアゾウ放飼場の整備工事が実施され、硬い土から柔らかい砂への入れ替えを行った結果、砂浴びや横臥姿勢による昼寝など、ゾウ本来の行動がより多く引き出された。北米より、ゾウ飼育の専門家であるアラン・ルークロフト氏を招聘し、ハズバンダリートレーニングおよび飼育管理全般における技術指導を受けた。

3月には、「スーリヤ（メス）」と「ウタイ（メス）」「アルン（オス）」母子の同居を行った。結果として継続した同居には至らなかったが、今後も別の方法を試行しながら同居を目指していく。

ニシゴリラは、5年ぶりの繁殖となるメスの子が5月31日に誕生し、オンライン投票を経て「スモモ」と命名された。母親の「モモコ」が重度の貧血であったことから母子分離し、人工哺育に切り替えた。群れに戻すことを前提に、人工哺育期間中も群れとのお見合いを継続するなどの工夫を行い、モモコの体調回復後には、親子の同居、次いで群れとの同居に成功し、3月19日より一般公開した。

「子ども動物園すてっぷ」では、6月14日に39年ぶりとなるシマスカンクの展示を開始した。

アイアイは1月3日に、およそ5年ぶりの繁殖となるオスの子が誕生した。アフリカクロトキは6月10日に孵化し、自然育雛で6年ぶりに育成した。

北海道大学と連携し、スマトラトラの人工授精を実施した。また、13年半ぶりの自然交配も実現し、妊娠を確認した。

3月20日、コビトカバ「モトモト（オス）」が繁殖用貸与により大阪市のニフレルから来園した。検疫の後、3月28日から展示を開始し、今後以前から飼育しているメス2頭との間で繁殖をめざす。

両生爬虫類館では、特設展示「民俗学からみる 暮らしの中の両生類・爬虫類——Folklore × Herpetology」の開催期間を12月末まで延長した。模様替えのため展示閉鎖していた第2展示場の日本産両生類爬虫類コーナーを9月27日から展示再開した。

両生爬虫類館が取り組む国産希少動物の保全を伝える常設展示を、7月26日から開始し、アナカタマイマイやミヤコカナヘビ、アカハライモリを展示した。加えて、イエアメガエルやピパなど、外国産両生類を展示するコーナーを8月2日より新設した。

【野生生物の保全】

ライチョウは、低温保存した精液を横浜市繁殖センターへ輸送して人工授精を実施し、1羽の孵化に成功した。また当園では、凍結精液を用いた人工授精を行い、有精卵を得た。どちらも日本初の試みとなる。ライチョウに関する共同研究は、日本獣医生命科学大学、中部大学、岐阜大学とそれぞれ継続して実施した。

ルリカケスは3月12日に、奄美大島から新たな繁殖用個体として計2羽の雛を採集した。4月19日には日本の鳥Ⅰにおいて、自然繁殖により4羽が孵化、育成した。10月6日には繁殖したメス1羽を鹿児島市平川動物公園へ譲渡した。

オガサワラカワラヒワは9月と3月に小笠原父島にて、域外保全活動の飼育繁殖、獣医臨床分野での現地指導を行った。近縁種での飼育技術確立の試みとしては、カワラヒワのペアが営巣、産卵、抱

卵に至ったが、途中で抱卵を放棄し孵卵器で人工孵化を試みた。その結果、1卵の人工孵化に成功したがヒナは6日齢で死亡した。新たな繁殖に向け、11月にカワラヒワのメスを横浜市より導入した。

アカガシラカラスバトは、3月末日現在、27羽(オス10、メス18、性別不明1)を飼育している。

光環境などの飼育環境要因の調査等を日本獣医生命科学大学との共同研究として継続実施した。

イボイモリは、順調な繁殖を継続しており令和4年2月、10月、1月に産卵が確認され、3月末現在で徳之島由来の創始個体6頭、上野繁殖個体72頭及び令和4年度繁殖個体19頭(幼体7、幼生12)の計97頭を飼育している。ミヤコカナヘビは、平成29年10月に日本動物園水族館協会を通じて繁殖用個体14頭を導入した。平成30年6月に孵化を確認してから順調に繁殖を継続しており、3月末現在で126頭を飼育している。

小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイは、令和3年度の繁殖が順調に進み、予定していた採卵数に達したことから、4月でペアリングを一旦終了し、育成飼育に専念した。

【教育普及】

令和4年3月20日に上野動物園開園140周年、10月28日にジャイアントパンダ来園50周年を迎え、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、各種イベントを実施した。

140周年企画は、「はじまりはいつも上野から 動物園が、未来の動物たちにできること」をキャッチコピーに、特設Instagramアカウントを運営し、上野初のライブ配信を行った。また上野動物園の歴史を写真で振り返る大型パネル展示、七夕イベント、SDGsフェア等を開催した。

6月にはジャイアントパンダのシャオシャオ・レイレイ・シャンシャンの誕生日記念企画として「シャオシャオとレイレイにお誕生日メッセージを書こう!」を2日間実施し、約160人の子どもたちによるメッセージカードをいそっふ橋欄干に掲出した。また都知事や来賓、抽選で選ばれた子どもたち出席のもと、「シャオシャオ・レイレイの1歳を祝う会」を開催した。

10月のジャイアントパンダ来園50周年記念企画では、オンライン講演会「ジャイアントパンダの『いま』を知る」を実施し、東京ブーネットYouTubeチャンネルから配信した。また、50年間の出来事や今まで飼育したパンダの特集などを紹介する3つの記念動画を作成し、公開した。

記念パネル展「パンダと上野動物園——ことばで紡ぐ50年の歩み」では復元したカンカンとランランの輸送箱も展示しながら、年表や写真と合わせて関係者の言葉とともに50年の歩みを紹介した。

シャンシャンが中国に返還されるにあたっては「花ひらけパンダの未来——ありがとうシャンシャン」企画として、オンライン講演会「シャンシャンの歩みとパンダの未来」、シャンシャンへのメッセージ募集、園内回遊型パネル展、フォトスポット設置などを行ったほか、急増したメディアによる取材の問合せや職員インタビューなどに対応した。

また4月にオンライン発信基地として様々な発信機材や教材などを備えた専用の施設「UENO ZOO STUDIO」がオープンし、都内小中学校へのオンライン授業や事前打合せを行ったほか、来園者へガラス越しのモニターにより授業の様子やスライド内容を公開し、当園の教育事業についてPRした。

子ども動物園すてっぷでは、5月に近隣の小学校と教育普及係、教育普及センターと連携して「不忍池環境学習プログラム」を実施した。教育普及係(解説員)はカワウの観察、子供動物園係はしのばずラボで展示している生き物のレクチャー、教育普及センターは観察の補助と役割を分担し、子どもたち自身がテーマを見つけて不忍池の生き物を観察するプログラムとしての試行を行った。

6月からは学校団体の受入れを再開し、子ども動物園すてっぷの動物を活用した体験型学習プログラムに34校490名(特別支援学校含む)の児童が参加した。

視覚障がい児向けのうえのZOOスクールは、体験型プログラムとして10月に盲児クラス「モルモット

のひみつ」を、12月に弱視クラス「身体をおおう不思議」を開催した。

盲児クラスのプログラムはモルモットとのふれあいと、モルモットの生態を学ぶミッションをグループで協力しながら達成していく内容で、都内の視覚特別支援学校3校から22名の児童が参加した。

弱視クラスのプログラムはモルモットとのふれあいと生き物の羽や鱗、体毛をさわったり、重さを比較したりすることからその役割や多様性を体感する内容とした。区立の視覚障がい児支援学校6校から児童30名が参加し、「新しい発見があった」、「動物に興味をわいて、解散後も園内をまわった」といった報告が寄せられた。また、東京都弱視教育研究会の会報「都弱視研」でも「弱視児にもわかりやすい工夫がされていて、楽しめるプログラムであった」と紹介された。

1月から再開した一般向けの体験プログラム「モルモットとなかよし」は学習効果を高めるため、モルモットの生態を紹介する動画を視聴してからモルモットを膝にのせる方法に変更し、471組1,147名が参加した。参加者がスマホ等を用いてオンライン予約する形を初めて導入したが、大きな混乱はなく、対応人数や外国人への対応など、次年度に向けて多くの知見を得ることができた。

【利用者サービス】

令和3年度に引き続き、整理券予約システムを継続して1日の入園者数を制限していたが、5月22日の東京都リバウンド警戒期間終了に伴い、手指消毒液やソーシャルディスタンス用マットの設置、来園時の検温システムの導入等の感染拡大防止策及び飼育動物の安全確保を再徹底した上で5月24日より整理券制による入園制限を撤廃した。

6月14日には正門に加え、弁天門からの入園を再開した。さらに10月1日には池之端門からの入園も再開した。全門からの入園を再開したことで、来園者の利便性が大きく向上した。

なお、団体の受入れについては、11月1日から段階的に再開している。

ジャイアントパンダ母子の観覧については、入園制限解除後も整理券制による観覧制限を継続していたが、10月4日に観覧制限を解除し、自由観覧（並んだ順での観覧）とした。

一方、シャイアントパンダのシャンシャンについては、11月18日に中国への返還時期が発表されると、観覧待ち時間は激しさを増し、1月中旬になると連日200分以上の待ち時間となった。

利用者の安全確保のため、1月21日から2月19日の最終観覧日まで、抽選制による観覧を実施した。最終観覧日の抽選倍率は、24倍であった。

収益事業では、入園整理券制が続いた5月22日までは来園者数に応じ、規模を縮小しての営業体制を続けた。5月24日の滞留人数管理方式への移行後は、休店していた店舗の営業を順次再開した。

商品としては、6月にシャンシャン5歳およびシャオシャオ・レイレイ1歳の記念商品を発売した。さらに、10月には開園140周年記念商品やジャイアントパンダ来園50周年記念事業企画の一環として、WWFジャパンとのコラボ商品を展開するなどした。シャンシャンの中国返還が正式に発表され、12月にサンキューシャンシャン商品を販売したところ、非常に大きな反響があり、年間売上も20億円に到達するなど、過去10年で3番目の好成績となった。飲食店では夏の限定メニューとして「塩唐揚げ」や「爽快アップルジンジャーソーダ」を販売し、夜間開園の特別感を演出した。また、西園無料休憩所では営業再開後の簡易的なメニューから順次通常メニューに戻してラインナップを充実させた。

外部販売の強化という点では、新たな試みとして、通信販売（Tokyo Zoo Shop）の限定商品として「カスタムフォトブック シャンシャン」の取扱いを5月24日より開始した。これは、シャンシャンの誕生から4歳までの210枚の画像から24カットを選び、オリジナルの一冊を作成できるという商品である。さらにお客様自身が撮影した写真も取り込むことができるため、自分だけのフォトブック

が作成できると話題になり、通常版とプレミアム版を合わせて2,000冊以上の注文があり、10月には第2弾の販売を行った。1月には同じく通信販売限定でシャンシャンのポスターを5種類発売し、合計7,000部以上の売上を記録した。

コロナ禍において、通信販売の可能性を広げる施策を行い、一定の結果を出すことができた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策に取り組んだ。また、震災対策として、新任研修、初動対応オンライン学習、安否確認・参集・無線等の各種訓練を実施するとともに、コロナ禍で控えていた園全体での実地訓練を3年ぶりに開催した。さらに、スマトラトラ舎での飼育職員と動物の同場事故を想定した机上訓練を実施した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化・空調設備及び給排水設備のインバーター化の更新を推進するとともに、園内樹木の枝処理や剪定作業、園路の不陸部分の舗装、総合案内所前固定ベンチの更新など、利用者の快適性の向上と安全確保に努めた。また、施設維持管理の一つの取り組みとして、コビトカバ舎放飼場扉補修整備やカバ舎屋上防水の補修を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

希少野生動物の飼育展示・繁殖に努め、35年連続でのニホンコウノトリの孵化を始め、オジロワシ、サーバル、マレーバク、キリン、コアラ、レッサーパンダなど様々な種の繁殖に成功した。

特筆すべき点として、チンパンジーは当園で初めて人工授精の取り組みにより出産し、ライオンは前年度に韓国ソウル大公園より来園した新たな血統のメスが子3頭を出産した。一方、レッサーパンダ（メス：国内飼育個体中の最高齢23才）、クロツラヘラサギ（朝鮮半島で捕獲され国内最長寿35才）等が死亡している。施設関連では、完成した新キリン舎へのキリンの引っ越しが行われ、旧キリン舎を解体、跡地には令和5年度にシマウマ・オリックス舎が建設され、サバンナエリア全体の整備工事が進む予定である。

2月14日、園内の「カモ池」で飼育するツクシガモが死亡し、インフルエンザ簡易検査の結果、陽性であったことが確認され、2月16日から4月9日まで53日間にわたる臨時休園となった。

なお、ツクシガモについては、その他に3羽が簡易検査陽性となり、遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）であることが確認された。さらに2月23日には「ソデグロヅル舎」で飼育していたソデグロヅルが1羽死亡し、インフルエンザ簡易検査の結果、陽性となり、その後に高病原性鳥インフルエンザウイルス陽性が確認された。飼育鳥での高病原性鳥インフルエンザ発生に対し、東京都関係部署からの指導及び鳥取大学鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターの協力を受け、防疫対策を講じ、飼育鳥での高病原性鳥インフルエンザ発生の終息を確認し、再開園への準備を進めた。

昆虫園の本館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年3月から中止していたグローワームの展示を12月より再開した（2年8か月ぶり）。生態園では、近年展示していなかったマルバネルリマダラや当園で初めてとなるルリモンジャノメなどのチョウを累代飼育して展示を開始した。

また、空調機械交換工事のため、本館は1月から2月にかけて全館閉鎖となった。

【野生生物の保全】

生息域内、域外の両面において保全活動の取り組みを実施している。トキでは、初めて自然繁殖による2羽を含む計4羽が生育した。例年秋に行なっている佐渡トキ保護センターへの搬出はトキセンターの改修工事のため延期となった。また、例年実施してきた佐渡トキ保護センターへのトキ定期健診のための職員派遣は、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年に続き、今年も休止した。

アカガシラカラスバトは、平成30年以降自然繁殖が順調で、遺伝的多様性を高めるため野生からの保護個体を優先した繁殖に取り組んでいる。クロツラヘラサギでは、保護された野生個体が12年ぶりに来園したが、寄生虫症による腎不全で死亡した。生息状況が急激に悪化しているアナカタマイマイ（小笠原固有の陸産貝類）では、飼育繁殖を継続するとともに、飼育下個体群の遺伝的劣化状況把握のため、東北大学においてDNA解析の技術研修を受講した。園内の野生動物の保全調査事業としては、園内アズマヒキガエルの減少が顕著なことから、アライグマなどによる捕食の影響を受けない旧類人猿舎放飼場に卵を放ち、経過のモニタリングを開始した。オガサワラシジミは、保全センターの液体窒素で保管していた試料を国立環境研究所へ移送した。

生物学分野では、EIA法によるホルモン測定を実施し、アジアゾウやユキヒョウ等の繁殖生理の解明および繁殖計画に役立てている。また、PCR法を用いた鳥類・哺乳類の性判別を実施している。ミトコンドリアDNA解析では、小笠原で採取したアカガシラカラスバトのサンプルを用いたハプロタイプ解

析、園内の野生アズマヒキガエルの交雑調査等を行った。これらは保全計画を検討する際の基礎情報として利用されている。チンパンジーの人工授精の取り組みでは、精子の冷蔵保存を行い、当日採取した精液と冷蔵精液を活用し、十分な活性のある精子を授精することで、受胎に成功した。また、チンパンジーの精液凍結保存も継続的に実施している。

普及啓発分野では、人と動物の共存について考える企画「すすめ！地球生命隊ーともに生きる未来へー」を常設展示し、当協会が取り組む保全活動を入園者に広く伝えている。

例年実施している野生生物保全センター講演会は、東京動物園協会の飼育系職員を対象とした研修として企画した。「都立動物園水族園における保全とは」と題して、保全についての認識をアンケート調査し、その結果をもとに研修資料を作成・配布した。

IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）のオンライン保全セミナー「コウノトリ保全活動の最前線！～再導入個体群の管理と課題～」では、San Diego Zoo Wildlife AllianceのOliver A. Ryder氏よりカリフォルニアコンドルの保全の状況をご講演いただき、今後のコウノトリの保全について考えた。

【教育普及】

新型コロナウイルス感染症対策による制約は徐々に緩和されてきたが、講演会などでは適宜オンラインを取り入れるなどしながら教育普及活動を行った。一部のプログラムについてはポストコロナを見据えて内容の改変を進めた。

今年度の教育普及活動において特筆すべき点は以下の3つである。

①新モルモットふれあいプログラム

モルモットとのふれあいは、2020年2月から休止していたが、感染症対策だけでなく、これまでの実施方法の見直しや動物福祉に配慮した方法の検討を行った。そして10月から新しいプログラム「おしえて！モルモット博士！」として再開した。プログラムでは、初めに紙芝居を見ながらモルモットについて理解を深め、次にモルモットを膝の上にのせてふれあい、最後に感じたこと、気づいたことを共有する振り返りの時間を設けた。参加者アンケートや発話調査などを行い、プログラム評価も実施した。

②オンラインと園内観察会を組み合わせた複合プログラム

昨年度は、コロナ禍で実開催が難しくなったホタル観察会をオンラインプログラムとして実施したが、今年度は感染症対策に配慮しつつ、ホタルの生態についてオンラインでの事前レクチャーと園内観察会との組み合わせによる新しいスタイルのプログラムを行った。事前レクチャーでは、園内観察会では見ることができないホタルの卵や幼虫、蛹のほか、幼虫の採食のようすなど、オンラインの強みを生かし、動画や写真を用いて参加者にじっくり観察し理解を深めてもらい、その後の観察会に繋げることができた。

③幼児向けオンラインコンテンツ

主に幼児を対象として、動物について楽しく学び、探求心を育むためのオリジナルコンテンツ「キッズ アンド ズー」を園の公式ウェブサイト上に開設した。動物のぬりえやひらがな練習などのワークシートと、それに関連する動画をリンクさせている。ウェブサイトからダウンロードして自宅などで活用してもらうことを想定して作成しているが、来園のきっかけづくりや動物を観察する際の新たな視点に気づかせることも狙いとしている。ワークシートコンテンツは次年度以降も引き続き増やしていく予定である。その他、動物解説員によるガイドツアーは短時間のスポット形式で実施した。

また、ボランティア活動は感染症対策指針を作成してガイドの試行を行い、大学生によるプログラ

ムは対面型から解説パネル作成へと変更した。東京観光財団のオンラインライブツアーへの協力など、外部団体との共催プログラムも実施した。飼育担当者によるキーパーズトークについては、感染症対策指針を作成して試行に向けて調整を進めていたが、2月に高病原性鳥インフルエンザの園内発生を受けて臨時休園となったため実施に至らなかった。企画展示としては、夏休み期間の「カブトムシ展」、干支の動物ウサギにちなんだ干支の企画展「だあれ??」などを開催した。

園内全体の種名サインのリニューアル作業を進めており、新しい種名サインにはIUCNのカテゴリーなど保全に関する情報を掲載する。

【利用者サービスの提供】

新型コロナウイルス感染症対策としては、入園整理券事前予約システムに代わり園内滞留人数の上限を管理することにより、園内混雑緩和を図った。また、「新しい動物園の楽しみ方」を実践するための入園時の体温確認、マスク着用、手指消毒及びソーシャルディスタンスを確保しながらの観覧について、引き続き来園者に協力を依頼した。

収益部門では、「世界ゾウの日」、「干支企画展“だあれ”」、「飼育の日」など教育普及プログラムに関連した企画や動物の赤ちゃん誕生を記念したギフト商品とメニューの開発・販売を実施した。

また新商品の紹介やライオンバスの券売状況などTwitterでの情報発信を積極的に行った。地球環境負担低減の取組の一環として、2月1日より紙製ショッピングバッグの無料配布を終了し有料化した。

感染防止対策として「密」を避けるため無料休憩所内の座席数削減を継続したが、サバンナキッチンでは希望者にテイクアウト可能な環境に配慮した紙容器で食事を提供し、利便性の向上を図った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

令和3年度より急速に拡大したナラ枯れ対策として、ナラ枯れに伴う倒木や落枝により来園者や飼育動物に影響を及ぼす恐れがある箇所を中心に、あらかじめナラ枯れ防止剤を樹幹注入した。

またナラ枯れ被害にあった樹木については、伐採計画を策定し、順次伐採作業を進め、来園者の安全・安心の確保につなげた。

観覧環境や動物飼育環境を支える基盤となる設備について、地球環境保全行動のひとつとしてレッサーパンダ舎やユキヒョウ舎などの照明器具のLED化を行うことにより環境負荷を低減させたことや、夏季における猛暑対策として、園内各所にミストファン設備を設置することで、来園者の観覧環境を向上させた。

園内の魅力向上策として、ライオン放飼場周辺にアフリカでよく見かけるリュウゼツランを植栽したほか、ユキヒョウ舎周辺にユキヒョウの生息地にみられるクレマチスモンタナ系などを植え付けるなど、それぞれの動物生息地の自然環境を再現し、動物園らしい景観や自然豊かな園地の創出や魅力を発信した。

危機管理対策としては、1月に震災対策初動対応訓練を実施した。令和元年6月以来の実地訓練で初めての参加職員も多かったため、職員の安否確認、被災情報の共有、来園者の避難誘導、傷病者搬送など基本的な対応を中心とした訓練内容とした。なお、新型コロナウイルス感染症の再拡大状況を鑑み、対面での接触が中心の傷病者救護対応については実施を見送った。また、3月にはテロ対策訓練を実施予定であったが、高病原性鳥インフルエンザウイルス発生に伴う園内防疫措置により臨時休園になったため、中止とした。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

大洋の航海者エリアの「大洋の航海者マグロ」水槽では、6月にクロマグロの1歳魚を38尾追加し、安定した群れ展示を作り上げた。また、7月から9月にかけてはバショウカジキの試験的な収集を行った。7月に高知県において採集された1尾の輸送に成功し、繁殖センターにおいて10日間飼育を行った。福井県では9月に2尾を搬入して「大洋の航海者マグロ」水槽に収容したが、サメ類に捕食され、展示までに至らなかった。

「大洋の航海者サメ」水槽は令和4年1月に展示変更のために閉鎖したが、設備の大規模な改修を行い、7月21日に生きたイシサンゴの仲間やサンゴ礁にすむ魚類を中心とした「サンゴ礁の海」水槽をオープンした。昨年度実施した特設展「暗闇で出会う生き物たち Encounters in the dark」のパネルの一部内容をリニューアルし、3月2日より本館1階に常設展示とし、調査研究の取り組みを紹介できるようにした。また、ライトトラップ調査で採集した様々な生物の展示も継続して行った。

8月13日にオウサマペンギン1羽がふ化した。ヒナ（オス）は、「レクス」と命名し「ペンギンの生態」屋外展示場において10月27日に一般に公開した。オウサマペンギンの繁殖は4年連続となった。

【野生生物の保全】

保全活動として、4園共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行っている。アカハライモリの活動では、6月にフィールド調査を実施し、昨年に引き続きタグリーダーアンテナを用いた陸上個体探索を行った。また、9月と10月に地元小学校の5年生を対象に授業を実施した。

ミナミメダカでは、葛飾区産個体群15個体を葛飾区へ譲渡した。また、調布市産個体の譲渡に向けて、東京都立農業高校及び神代植物公園の3者で覚書を交わした。トビハゼ調査では、当園が事務局となり、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により休止した。フィールド調査では、7月に巣穴調査を実施し、10月に稚魚調査を実施した。域外保全では、展示水槽内で繁殖に成功し、8月11日にふ化に成功し400尾の仔魚が得られているその生態、干潟遊びについて伝え、東京湾の干潟の現状や重要性を知ってもらうのを狙いとした。東京産両生類の保全活動では、アカハライモリ、カジカガエルの産卵に成功している。卵の育成については4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成をしている。産卵した種のうち、アカハライモリを5個体育成している。ゼニタナゴの保全では、日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、淡水二枚貝を用いて454尾以上の繁殖に成功した。また、ため池水槽に繁殖個体を合計31個体展示するとともに、二枚貝2個体を展示して繁殖行動の展示をおこなった。また、環境省がすすめるウミガラス保護増殖委員会に委員として参加して域内保全に協力している。小笠原希少陸産貝類の保全では、4園のとりまとめを行うとともに、環境省に協力して個体群の再生に協力している。さらに、国立研究開発法人水産研究・教育機構と締結した包括連携協定の一環として、「ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業」に参加し、ニホンウナギの種苗実験に協力している。小笠原諸島で例年行っていたユウゼン調査は、6月にユウゼンの空間分布と他チョウチョウオ科内での相対的な関係を明らかにする潜水調査および3月に兄島の調査区内で個体識別のための潜水調査をおこなった。ユウゼンの域内保全の取り組みとしては、ペアの形成および産卵まで確認できており、仔魚の育成にチャレンジしている。

【教育普及】

前年度に引き続き、コロナ禍による開園中の対面で行う教育活動の制限もあり、TwitterやYouTube

等のSNSやオンライン会議システムのZoomなどを利用して、オンライン中心の教育活動を行った。

また、年間を通じてTwitterで積極的に園の情報発信を行うとともに、YouTubeでの情報発信と連動させるなどの工夫をし、多様な情報発信を行った。行動制限の緩和や感染状況などを見ながら、徐々に対面での活動も再開するとともに対面とオンライン併用のハイブリッド形式での活動も実施した。

6月には障害のあるお子さまとご家族をご招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」を参加者の募集人数を以前の半分に制限した上で3年ぶりに対面で実施した。

8月のお盆期間中の指定日に開園時間を3時間延長し、開園中に水槽の照明を消して魚たちといっしょに夜を迎える「Night of Wonder——夜の不思議の水族園」を3年ぶりに実施した。

10月は葛西臨海水族園の開園記念日イベント「見る、聞く、学ぶ 海の生きもの」を実施し、マグロと他の魚を比べて学ぶ「くらべるマグロシート」の配布や「マグロ飼育担当によるスタッフトーク」の他に、YouTubeを使い開園初期に水族園で新しい展示をつくる上での工夫や苦労について当時のスタッフに聞く、「かさりん放送——初代スタッフに聞いてみた」をラジオ風に配信したり、水槽前でマグロやペンギンを見ながら、からだの特徴や観察のポイントなどを小さなお子さまにもわかる内容で優しくお話する「マグロ for Kids」、「ペンギン for Kids」morningライブ放送を行ったりした。

お正月は2023年の干支・卯（ウサギ）にちなみ、「とぶ」生き物たちを主役にしたクイズラリー「魚っ兎！とぶ！？生き物クイズラリー」などを行った。2月には「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち」と題して、深海の魅力を伝える様々なプログラムを開催した。深海生物をテーマにしたクイズに答えるとオリジナルの深海カードがもらえるプログラムも実施した。

子ども向けの体験型プログラムは、コロナ後として初めて「西なぎさ」でのフィールド観察を幼児向けの「進め！海のいきものたち」、小学1・2年生向けの「いきものことはじめ」、小学3・4年生向けの「海のあそびや」、小学5・6年生向けの「集まれ！汐っ子たち」で各1回実施した。

また、上記4つの区分で、体験的に生き物の生態や環境について学ぶプログラムを、実地とオンラインでそれぞれ1回ずつ実施した。フィールド観察プログラムも実地での開催を再開し、木更津市のアマモ場と「西なぎさ」でそれぞれ実施した。高校生・大学生向けの「海の学び舎」は、オンライン講演会形式で1回（湿地帯の生物多様性について）、ハイブリッド形式で2回（ウミガメの生態とウミシダの分類・繁殖について）実施し、オンラインでは全国各地から参加があった。10月には開園記念日特別企画・SDGs企画として、クロマグロの群れが泳ぐ水族園のマグロ大水槽と海からサケが遡上してくる山形県遊佐町の滝沢川をオンラインで結んで、ダイナミックな泳ぎのひみつや生活史のふしぎなどを、生中継しながら紹介する親子向けオンライン体験ツアーを初めて実施した。

学校との連携では、9月から実地での団体プログラムを再開し、未就学児から大学生まで合計123件7,450名に対して実施した。実地開催を再開しつつオンラインでの遠隔団体プログラムの受け入れも継続し、合計22件1,945名に対して実施した。また博物館実習は、感染防止対策を徹底した上で例年どおり受け入れた。

一般向けの講演会は海鳥の保全をテーマとした「つどえ、オロロ〜ン！」や水辺の保全講演会等、オンライン及び対面と併用のハイブリッド形式で合計4回実施した。

8月に実施した「つどえ、オロロ〜ン！」では連携協定を結んでいる羽幌町との共催により、現地と結びながら開催し、オンラインのメリットを生かした内容となった。10月は開園記念日に合わせて、講演会「バイオロギングが解き明かすマグロの謎、サメの秘密」を、2月には身近な水辺保全講演会「魚はなぜ減った？——身近な水辺の声を聞く」をZoomと対面のハイブリッド形式で、それぞれ実施した。また、3月にはホワイトデー特別企画 講演会「ペンギンの性事情」を対面とYouTube Liveを併用したハイブリッド形式で実施した。

新展示「イキモノマヂカ」では、自由観覧のほかに、7月から1日2回の解説プログラムを開始し、合計460回3,817名に対して実施した。

移動水族館事業は、感染防止対策として、ふれあいや標本等教材を使ったプログラムは休止し、うみくる号の水槽等の定期的な消毒を行いながら実施した。障害等のために来園することが難しい特別支援学校や社会福祉施設の利用者を対象に合計43回を実施した。

【利用者サービス】

夏季における園内サービスとして、無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（西洋アサガオやトケイソウ）による緑陰の創出を継続したほか、輻射熱対策としてミスト扇風機の導入（正門、水の広場、売札所）等、涼感の演出による入園者向けサービスを継続実施した。

入園券関係では、4月からぐるっとパスが冊子ではなくQRコードを読み込む電子版になった。

また、コロナ禍で発売が延期になっていた、外国人旅行者向けの観光チケット「The Tokyo Pass」を9月5日から発売した。

外国人来園者対応研修として、月1回の語学研修と接遇研修(1月)をオンラインで継続実施した。

収益部門では、持続可能な水産業のための「MSC/ASC認証食材」を使用したメニューの提供を9月下旬から開始（MSC認証まぐろ丼など）。ギフトショップでは「エコグッズコーナー」の展開を普及啓発も兼ね拡大展開し、SDGsな取り組みを積極的に発信した。また、東京都島しょ部産の食材を使用したメニューや物販を展開し、東京の豊かな海や島の紹介も行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化による機器故障の補修や配管類の破損修繕を行うとともに、予防保全として不具合発生前の改修や快適性向上のため壁面塗装やベンチ補修等、約110件の工事や修繕等を実施し、設備の適切な運用に努めた。

園内樹木は、植樹から30余年が経過し育成から成熟の時期を迎えたことにより、樹形を考慮しながら剪定と世代交代を意識した間伐を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、地震発生時の初動対応訓練を継続実施したほか、大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定を締結する新潟市水族館マリニピア日本海と大地震発災を想定した机上訓練を合同で実施し、連絡手段や物資や生物の輸送方法等について意見交換を行い、連携を深めた。

また、テロ対策として地元警察や隣接する公園と連携したテロ対処合同訓練を実施した。今回初めてブラインド型訓練を行い、刃物を持った不審者が館内に現れたというシナリオのもと対策本部立上げや通報、来園者誘導等の初動対応訓練を行ったほか、警視庁担当者によるサスマタの実技講習及び爆発物テロ対策講習会を実施した。災害時の救命講習会については、葛西消防署にて団体講習を受講し、継続的に技能習得を行っている。

感染防止対策としては、都のガイドラインに準じた対策の徹底を継続して行った。ゴールデンウィークは整理券方式で入園者を制限したが、それ以外の期間は滞留人数管理方式での入園制限を行った。コロナ禍以降は団体の入園は中止していたが、4月11日からは2時間ごとに200名の定員で団体受入れを再開し、その後9月からは1時間ごとに300名、1月からは人数制限をなくした。

また、お客様が園内の混雑回避に役立てられるよう、6月から11月の行楽シーズンに「混雑予想カレンダー」をホームページに掲出した。感染防止対策としては、引き続き検温や手指消毒液の設置・提供、レストランの座席の間引き等を実施し、これらの対策やルールをわかりやすく来園者に伝えるために作成した、「新しい水族園の楽しみ方」を公式HPや園内にて掲出した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

動物園（本園）では、4月に実施した人工授精により、5月10日と19日にそれぞれ1羽ずつコシジロヤマドリのヒナが孵化した（うち1羽が成育）。令和3年11月にソウル大公園（韓国）からペアで搬入したアムールヤマネコは、3月のペアリングにより、5月13日に4頭（オス1頭メス3頭）が誕生した。5か月後の10月末から子ども4頭の展示を開始し、来園者の人気を集めた。

5月には、家畜舎放飼場に木製遊具を設置し、高所に登ることを好むヤギに展示空間を立体的に利用させ、かつ動物の意欲を高める飼育環境の改善に努めた。令和3年5月にメスが死亡したため展示が一時途絶えていたアカガシラカラスバトは、6月に多摩動物公園からオス・メス各1羽ずつを搬入し、7月から展示を再開した。令和3年11月に名古屋市東山動植物園からメス1頭を搬入し、既存オスとの間でペアを形成したニホンカモシカは、7月6日にオス1頭が誕生した。

放飼場での出産だったため同日から公開となり、来園者の人気を集めた。平成28年から飼育していたブタ（チャイニーズポットベリー）のメス1頭が1月25日に死亡し、本種の展示が休止した。シコクヤマドリのオス1羽が2月19日に死亡し、当園で飼育展示するヤマドリは、コシジロヤマドリの1亜種のみとなった。ここ最近、冬季に高病原性鳥インフルエンザが国内で発生していることから、武蔵野ハビタット内で飼育しているツル類を収容するためのケージを9月に整備し、感染症対策の強化を図った。2月には、高病原性鳥インフルエンザが都内で発生したことから、タンチョウとクロヅルそれぞれ1羽ずつを室内に収容した。

水生物園（分園）では、水鳥類の繁殖に取組み、オシドリ10羽（うち7羽成育）、ヒドリガモ2羽（うち1羽成育）、キンクロハジロ1羽、サカツラガン2羽（うち1羽成育）、カリガネ3羽（うち2羽成育）を成育した。また、コサギ、ミゾゴイでも産卵、ふ化が見られたが、ヘビによる食害などで育成はできなかった。多摩動物公園からクロツラヘラサギの種卵2卵を移動して、2ペアに1卵ずつ抱卵させ、自然育雛により2羽を成育することができた。5月19日に山梨県武田の杜からハシビロガモ（オス）1羽、コガモ（オス）1羽を、5月30日に自然環境アカデミーからミゾゴイ1羽（メス、武蔵野市内保護）を受け入れた。高病原性鳥インフルエンザ対策では、近県発生時には弁天池側のハクチョウなど開放型の展示にいた水鳥類などをカリガネ舎やオシドリ舎など網で囲われたケージへ移動するとともに、すべての禽舎の屋根に寒冷紗またはビニールシートを張り、野鳥の落下糞対策を強化実施した。

水生物館では、2019年から実施していなかった特設展示を再開し、イノカシラフラスコモをテーマにしたものなど、3回の特設展示を実施した。2016年よりメス1羽の単性飼育をしていた日本産のカイツブリは、7月26日に琵琶湖博物館よりオス1羽を譲受け、2羽の展示となった。

2021年7月に死亡して種消滅となっていたオオサンショウウオは、11月9日に広島市安佐動物公園よりメス1頭を譲受け、展示を再開した。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。平成27年度から令和2年度まで毎年、ツシマヤマネコの人工授精を実施してきたが、未だ妊娠・出産に至っていない。同事業において策定した「令和4年-5年ツシマヤマネコ飼育下繁殖（移動）計画」に基づき、今年度も当園では人工授精を実施せず、12月にオス1

頭を福岡市動物園から搬入し、3月に採精を実施した。さらに、令和5年3月にメス1頭を富山市ファミリーパークへ搬出した。また、3年ぶりとなる「ヤマネコ祭り2022」を10月に実施し、ドーセントボランティアによる展示前での「ヤマネコガイド」を11月から再開するなど新型コロナウイルス感染症拡大防止のため滞っていた定例の普及啓発活動を順次再開した。

アカガシラカラスバトの保護増殖事業では、メス1羽が令和3年5月13日に死亡し、本種の展示が一時途絶えたが、6月に多摩動物公園からオス・メス各1羽ずつを搬入し、展示を再開した。

平成29年度から新たに小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（カタツムリ類）の絶滅危惧種であるカタマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認した。今年度は7月に葛西臨海水族園との間で個体どうしを交換し、搬入した小笠原生まれの7頭からの採卵とふ化に成功した。

さらに当園は、日本動物園水族館協会と環境省との間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づくトゲネズミ類の生息域外保全等推進事業に協力し、令和2年7月にアマミトゲネズミのオス6頭、メス4頭を受け入れて、飼育を開始した（非公開）。同事業において策定した「令和4年度アマミトゲネズミ移動・繁殖計画」に基づき、令和5年1月にオス1頭を横浜市金沢動物園から、オス・メス各2頭ずつを神戸どうぶつ王国からそれぞれ搬入したほか、8月14日にオス1頭、3月3日にメス1頭がそれぞれ死亡した。今後ペアリングを進めて、繁殖を目指していく。

淡水魚類については、日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、シナイモツゴの域外保全に取り組んでいる。ミヤコタナゴについては、1997年より千葉県産個体群の累代飼育を行ってきたが、飼育個体のほぼ全てで奇形が見られるようになったため、令和4年度は繁殖させず、新たな個体群の導入を検討した。その結果、保存施設、保存数とも少ない埼玉県産系統を導入することとなり、3月10日に埼玉県滑川町エコミュージアムセンターより50個体を譲り受けた。

東京産両生類は、引き続き4園が連携して飼育下繁殖の技術向上に努めるとともに、4園間での個体の交換を進めた。

イノカシラフラスコモなど井の頭池産水草の域外保全に取り組み、特設展示や水辺の生き物保全講演会などで普及啓発を行った。

【教育普及】

開園80周年の節目を迎え、“感謝の気持ちと園の魅力を伝える”ための周年事業を、園を挙げて取り組んだ。また、ポストコロナに向けた社会変化を見据えながら、対面型イベントや学校団体対応を再開し、SNSを活用した情報発信の継続に努めた。対面型の定例イベントについては、「動物解説員ガイドツアー」の代替として実施してきた「ミニガイド」を継続しながら、ツアー形式に捉われないガイドへの移行を試行した。「飼育係のいきものガイド」は令和3年度に引き続き休止としたが、定例外のイベントでの実施を経て来年度の再開を予定している。「彫刻園ギャラリートーク」は館内での実施も再開しつつ、「彫刻園セルフガイド」の配布を継続した。ボランティア活動は、約2年半ぶりに再開した。サービスガイドグループは10月から「モルモットふれあいコーナー」と「リスの小径」、ドーセントグループも10月から「ヤマネコガイド」を開始した。

定例外の多くのイベントには“開園80周年”の冠を付け、バージョンアップして実施した。5月の開園記念に合わせて、飼育係が動物の観察ポイントを紹介したセルフガイド「飼育係からのお便り」を12月まで毎月発行し、イベント当日は地元の特色ある18店舗が出店した「まちのどうぶつえんマル

シェ」を開催した。6月の「ドリームナイト（デイ開催）」と10月の秋の夜間開園「秋の夜長の自然文化園」、「ヤマネコ祭」は2年ぶりの実地開催となり、従来の企画に加えて、夜間開園では新旧園長によるクロストーク、ヤマネコ祭では海外から研究者（台北動物保全教育基金：張氏）を招いての講演会等を実施した。その他周年記念事業として、園内の樹木の特徴や歴史等を紹介する「井の頭自然文化園の樹木」の発行、地域商店街へのフラッグ掲出、ラッピングバス（東京屋外広告コンクール都市整備局長奨励賞を受賞）の運行、ジブリ美術館やアトレ吉祥寺店、ユニクロ吉祥寺店とのコラボイベント、YouTubeライブ配信、資料館特設展「メッセージ展」等を実施した。また、地域連携の「むさしの環境フェスタ」、「三鷹国際交流フェスティバル」も2年ぶりに再開され、出展した。

園内のフィールドを活用したプログラムも実地開催で再開し、「身近ないきもの探検」を2回、「文化園いきものクラブ」を5回開催した。「いきもの広場」は、2月のボランティア研修を経て来年度4月から「いきもの広場であそぼう」を再開予定、「水辺のいきもの広場」は、井の頭池の観察会等でのイベント利用を継続した。資料館ではヤマネコ保全に関する「ヤマネコのちいさなおへや」を継続した他、生体とバルーンアートとのコラボ展示、Art and the Zoo vol. 7「黒沼真由美展」を開催した。ゾウ舎展示室では、巡回特設展「あんこさんとゾウ」開催後、同展示を常設展としてリニューアルオープンした。水生物館では井の頭池で再生したイノカシラフラスコモの生態や水生物館での取組みを紹介した「60年の眠りから覚めた幻の水草 イノカシラフラスコモ」展の他、2展を開催した。

彫刻館では、北村西望と長年にわたってライバルであり盟友であった朝倉文夫の関係性を再考する企画展「北村西望と朝倉文夫 ― 二人の関係性」他、2展を開催した。また、東京藝術大学美術学部の森教授らとの協働でおこなわれた石膏原型の修復の成果、並びに武蔵野市立吉祥寺美術館と開催した市内の彫刻作品めぐりイベントの成果の報告書を作成、一般にも閲覧と配布を開始した。学校団体対応と職場訪問、職場体験も再開し、園内およびオンラインとアウトリーチを含めて約100件を受け入れた。動物園実習は7月から9月にかけて4名、博物館実習は11月に5名受け入れた。園内情報発信整備として、正門先に設置する総合案内看板の製作と、水生物館のゾーン化の整備をおこなった。

【利用者サービス】

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和3年度から引き続き滞留人数管理方式（4月28日まで最大滞留者4,500人、4月29日から最大滞留者7,000人）を継続するなど、対策を実施した。

また、コロナ禍で令和2年度以降は中断していた秋の開園3時間延長「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を10月8日（土）、9日（日）に開催、キーパーズトークのほか、ミニコンサートや彫刻園ガイドツアーなど、芸術の秋らしいイベントを多数実施した。

案内接客スタッフの接客力向上のため、コロナ禍で中断していた英会話講習を再開するとともに、専門の講師によるクレーム対応研修を行った。

園内の売店においても感染拡大防止のため、手指消毒液や飛沫防止シートの設置、コロナ対策リーダー認証の取得等、対策を継続した。また、当園の80周年記念限定商品として、周年のシンボルデザインとなったヤマネコグッズ拡充のほか、りすのしっぽプチシューやオリジナルクラフトビールなど、当園らしいフードメニューの提供にも取り組んだ。SDGsに配慮した脱プラスチックを継続推進し、フードショップのカトラリーを紙製に変更するとともに、ギフト店の紙袋の有料化を行った。

老朽化した施設の更新のため、ぶらんこ広場において、弓形シーソーに替え新しい遊具（キント雲）を導入。また、老朽化したベンチについて、部材交換により計画的補修を推進した。

文化園として日本庭園風の心地よい空間づくりのため、童心居の周囲の生け垣の計画的な補修や、園内で発生した石材を活用して敷石や飛び石を敷設した。

リスの繁殖棟で発生した杉丸太を活用し、野鳥の森の人止め柵改修を行い、今後同様のスキームで計画的に人止め柵の改修を図ることとした。

水たまりやぬかるみ対策として、排水施設の整備や砂利敷きを行い利用者の利便性の向上を図った。

熱中症対策として、ジャブジャブ池に日除けを設置した。

園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」に加え、花の動画を合わせて配信し、文化園の魅力発信に努めた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

自然災害への備えとして、枯れ枝等の落枝を防ぐため、点検により支障枝・腐朽等を早期に発見し処理を行うことで入園者の安全確保に努めるほか、大径樹木について、高所作業車を入れた支障枝撤去作業を実施した。

利用者の安全対策として、水生物園入口付近の段差解消を図り、躓きを防止するなど安全性の向上を図った。また、水生物館入口の自動扉で手や持ち物が巻き込まれる事故を未然に防ぐために、自動ドア安全柵を設置した。

Ⅱ．事業実績

〔１〕飼育・展示事業

１．展示動物の収集・管理

（１）動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園 名	種 名	数量	区分	摘 要
上 野	コビトカバ	1	借受	NIFREL
	レッサースローロリス	2	贈与	ふくしま海洋科学館
	ヘビクイワシ	1	交換	東武動物公園
	カワラヒワ	1	贈与	横浜市繁殖センター
	チュウゴクワニトカゲ	3	交換	天王寺動物園
多 摩	パルマワラビー	1	交換	伊豆シャボテン動物公園
	チーター	3	贈与	リーG.シモンズワイルドサ ファリパーク ザ・ワイルズ
	ユキヒョウ	1	借受	神戸市立王子動物園
	ニホンカモシカ	1	借受	広島市安佐動物公園
	キリン	1	交換	高知県立のいち動物公園と 交換 広島市安佐動物公園より 来園
葛 西	フェアリーペンギン	10 (卵)	贈与	長崎ペンギン水族館(6卵)、 アドベンチャーワールド(4 卵)
	サケビクニン	6	交換	登別マリンパークニクス
	クロマグロ	38	購入	伊豆中央水産
	バショウカジキ	3	採集	
	ヨシキリザメ	1	購入	トロピカルアンドマリン
井の頭	ハシビロガモ	1	その他	山梨県
	ミゾゴイ	1	所換	東京都環境局
	アカガシラカラスバト	2	移管	多摩動物公園
	オオサンショウウオ	1	贈与	広島市安佐動物公園
	ミヤコタナゴ	50	贈与	滑川町エコミュージアムセ ンター

(2) 動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における稀少種血統登録への参画や、約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称:国際種情報システム機構）の会員として、動物情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（令和5年3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備 考
上 野	哺 乳 類	18	58	96	1,074	
	鳥 類	20	47	96	529	
	は 虫 類	4	28	64	259	
	両 生 類	2	15	33	512	
	魚 類	7	7	7	146	
	無 脊 椎 動 物	2	3	3	302	
	計	53	158	299	2,822	
多 摩	哺 乳 類	9	27	55	505	
	鳥 類	16	25	80	915	
	は 虫 類	1	4	5	35	
	両 生 類	2	5	7	120	
	魚 類	1	1	5	13	
	無 脊 椎 動 物	22	57	130	19,453	昆虫綱シロアリ目・ハチ目の社会性昆虫2科3種3群含む
	計	51	119	282	21,041	
葛 西	哺 乳 類	0	0	0	0	
	鳥 類	5	5	9	257	
	は 虫 類	1	2	3	14	
	両 生 類	2	6	9	195	
	魚 類	24	124	451	10,796	
	無 脊 椎 動 物	71	169	446	22,829	
	計	103	306	918	34,091	
井 の 頭	哺 乳 類	7	17	31	396	
	鳥 類	13	22	59	261	
	は 虫 類	2	6	8	27	
	両 生 類	2	8	10	377	
	魚 類	7	11	38	1,558	
	無 脊 椎 動 物	6	13	16	438	
	計	37	77	162	3,057	
合 計					61,011	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により、動物の特性を引き出すための展示改善やエンリッチメントを積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上 野	アイアイ	1			1	
	ニシゴリラ		1		1	
	ジャコウネズミ	3	2		5	
	ルリカケス	1	3	2	6	2羽死亡
	パラワンコクジャク		3		3	1羽死亡
多 摩	コアラ	1			1	
	チンパンジー	1			1	人工授精
	サーバル	1	2		3	1頭死亡
	キリン	1			1	
	オジロワシ	2			2	
葛 西	オウサマペンギン	1			1	
	フンボルトペンギン	4	1	2	7	2羽死亡
	ミナミイワトビペンギン	1		2	3	2羽死亡
	フェアリーペンギン	3	1	2	6	1羽死亡
	ウミガラス	1	2		3	1羽死亡
井の頭	アムールヤマネコ	1	3		4	
	ニホンカモシカ	1			1	
	クロツラヘラサギ		2		2	種卵を托卵
	コシジロヤマドリ	1		1	2	1羽死亡
	オシドリ			7	7	

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
上 野 動 物 園 合計15件	保全コーナー 生体展示開始	両生爬虫類館で取り組んでいる国産希少動物の保全について、情報パネルの展示のみ行っていたが、ミヤコカナヘビ、アオカナヘビ、アナカタマイマイ、イボイモリ等の生体展示をあわせて開始した。
	西園ペンギン池	経年劣化によりもろくなった部分の補修工事に合わせ、生息地をできるだけ再現するよう岩のように見える塗装を実施した。
	しのばずラボの展示改善	しのばずラボで飼育展示しているスッポンの水槽に砂の床材を追加し、砂にもぐって獲物を待ち伏せする習性を来園者に伝えることができた。また、新規導入したアオダイショウの水槽上部にヒーターを設置することで、隠れがちな動物を見やすくし、枝の上でも休息する生態を来園者に伝えることができた。
多 摩 動 物 公 園 合計16件	レッサーパンダ中庭展示 室照明LED	中庭の屋内展示室内の照明をLED化。展示室内が明るくなり、観覧通路からより見やすくなった。
	新キリン舎への移動	旧キリン舎に接する園路は封鎖されていたため、旧キリン舎に収容させると来園者は動物を観覧することができなかったが、新キリン舎へ移動したことにより雨雪などの悪天候や工事などにより動物を収容しても室内観覧が可能となった。
	展示場ロープ交換(チンパンジー)	老朽化し外れたロープの箇所新しくロープを設置した。既存のものよりも長く伸ばしたことで動物のダイナミックな動きが来園者に見えやすくなった。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計5件	「グレートバリアリーフ」 水槽におけるスパイニー クロミスの仔魚保護行動 の展示	「グレートバリアリーフ」水槽において、スパイニークロミスの産卵とふ化を確認し、仔魚を保護する行動を展示した。
	「チリ沿岸」水槽でのカ マロンデロカの展示	「チリ沿岸」水槽にカナダマシの仲間のカマロンデロカを新規展示した。
	トピック水槽によるタル マワシの仲間など浮遊生 物の展示	大島や小笠原諸島でライトトラップを用いた夜間採集を実施し、タルマワシの仲間や魚類の仔魚などを展示した。
井の頭自然文化園 合計22件	ホンドテン展示に視線誘 導パネルの設置	夜行性のため、開園中は巣箱で休息していることが多いホンドテンについて、室内展示場の窓に来園者の視線を誘導するような展示パネルを設置することで、来園者が自ら気づき観察できるよう促

園 名	主な展示改善の件名	内 容
		し、常設展示の魅力が向上した。
	アオジ、ルリビタキの新 規展示	園周辺にもすむ身近な野鳥にもかかわらず、やぶを好むため目にする機会の少ないアオジやルリビタキを生体展示することで、来園者に身近な自然を普及啓発した。
	「今の井の頭池」水槽で の水草展示	「今の井の頭池」展示水槽に水草を植栽し、かいぼりにより水草が復活した井の頭池を表現した。

③ 主なエンリッチメント

園 名	主なエンリッチメントの 件名	内 容
上 野 動 物 園 合計101件	アジアゾウ 放飼場の砂の交換	これまで使用していた真砂土は踏み固まってしまうため、固まらないルナサンドという砂に入替を行った。固まらないため肢への負担が軽減され砂浴びがし易い。仔ゾウは今まで見られなかった放飼場での昼寝が見られるようになった。
	コビトカバ	肢にできる皸を予防し福祉を向上させる目的で、プールの水温調節の時期、空気加湿、皮膚の保湿と血行促進のためのマッサージを実施した。
	シマスカンク 給餌方法の多様化	シマスカンクが食いだめをする秋に放飼場内の色々なところに餌を隠し、採食環境の多様化をはかった
多 摩 動 物 公 園 合計54件	アジアゾウ オスゾウ舎 ベニヤフィーダー設置	柵に穴をあけたベニヤ板を取り付け、動物と反対側にフィーダー(ガス管、ブイ等)を設置した。給餌方法のバリエーションが増え、動物が採餌に費やす時間も増えた。
	グレビーシマウマ 山砂 の追加	蹄の状態が悪く、コンクリート部分だけではなく、硬い地面の上を歩くのも苦痛な様子であったため、放飼場の一部に山砂を敷きならしたところ、よく砂の上を歩いたり寝そべったりするようになった。
	猛禽保護ケージ ハチク マ	園内で採取したスズメバチ及びアシナガバチの巣(幼虫・蛹・成虫)を一定期間継続して給餌した。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計4件	ペンギンの生態	フェアリーペンギンを健康的に飼育するために、珪砂を追加した。
	ペンギンの生態	プールに餌をまくことによって、本来の遊泳しながら水中で摂餌する行動を引き出した。
	海鳥の生態	プールに餌をまくことによって、本来の遊泳しながら水中で摂餌する行動を引き出した。

園 名	主なエンリッチメントの 件名	内 容
井の頭自然文化園 合計13件	ミゾゴイ舎に餌入り落ち 葉プールの設置	動物福祉向上のため、ミルワームを入れた落ち葉プールの設置した。ミゾゴイがすぐに反応し、落ち葉をよけながらミルワームを探し始めた。その結果、いつもより採食時間が伸び、動きも活発になった。
	ニホンアナグマの落ち葉の 山設置	ニホンアナグマの展示場に落ち葉の山を設置して、休息行動や穴掘り行動を引き出した。
	カモ舎セキショウ植栽	放飼場にセキショウを植栽し、カモ類の隠れ場所や営巣場所となるよう整備した。

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生生物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 上野動物園（合計14件）

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所または掲載雑誌等
世界ゴリラの日の情報発信と意識調査	鈴木 佐知子	第 63 回 日本動物園水族館教育研究会（口頭発表）
『3つの柱からなる体系的な安全対策』の取り組みについて	高岡 英正、廣瀬 格、 仲村 賢、小澤 詩歩、 鈴木 七海、木岡 真一、 田村 由美	第 21 回 関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会、恩賜上野動物園開催（オンライン・口頭発表）
アメリカバイソン舎の安全対策のための改修	矢澤 奈々、宮田 桂子、 高橋 幸裕	第21回 関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会、恩賜上野動物園開催（オンライン・口頭発表）
「ライチョウにおける人工繁殖補助技術の最前線」	吉澤 円	第20回ライチョウ会議（口頭発表）
カバにおける塩酸エトルフィン使用報告	石川 陽一	第34回大型動物麻酔研究会、沖縄こどもの国（口頭発表）
上野動物園における両生類の抗酸菌症蔓延対策の検討	林 笑、浅野 晃良、 武山 栄治、湯澤 優菜、 斎藤 祐輔、吉澤 円、 平野 雄三	第32回日本動物園水族館両生類爬虫類会議（口頭発表）
アジアゾウ飼育管理方法の移行について:直接飼育から準間接飼育へ	青木 孝平、山口 翔平、 三塚 修平、志田 昌信、 島田 優也、横島 雅一、 安藤 小百合	第31回ゾウ会議、周南市徳山動物園開催（口頭発表）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
カリフォルニアアシカで発生した耳道内扁平上皮癌の一例	石川 陽一、林 笑	第23回 関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会，川崎市夢見ヶ崎動物公園開催（オンライン・口頭発表）
普及啓発プログラム「ゴリラの危機とスマートフォン」の実施について	仲村 賢、鈴木 佐知子	第70回 動物園技術者研究会，広島市安佐動物公園開催（口頭発表）
動物園におけるライチョウ保全のこれから	高橋 幸裕、宮田 桂子	ライチョウ基金シンポジウム2023「ライチョウ、山へかえる！～動物園でのライチョウ保全・今までの取り組みと展望」（口頭発表）
動物園における飼育ニホンザルの観察について	青木 孝平	第4回京都大学霊長類研究所技術部セミナー（オンライン・口頭発表）
上野動物園での繁殖補助技術の取り組み2022	吉澤 円	令和4年度第1回ライチョウ飼育管理検討会議及び令和4年度計画推進会議，恩賜上野動物園開催（口頭発表）
ジャイアントパンダ 双子の誕生初めてづくしの繁殖への挑戦	齋藤 圭史、中島 麻衣、石神 雄大、野中 碧、蓮見 香帆、平野 雄三、林 笑、栗原 拓也	どうぶつと動物園 2022年秋号（2022.10）
上野動物園のミヤコカナヘビ 生息域外保全の取り組みについて	齋藤祐輔	どうぶつと動物園 2023年冬号（2023.1）

② 多摩動物公園（合計20件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
多摩動物公園の新しいふれあいプログラム「おしえて！モルモット博士！」の事例紹介	近藤 奈津子、浅沼 史子、松本 昌、岩淵 けい子、香坂 美和	第63回日本動物園水族館教育研究会（口頭発表）
コロナ禍におけるホタル観察会	渡辺 良平	令和4年度全国昆虫施設連絡協議会（口頭発表）
多摩動物公園におけるライオン飼育展示の安全対策について	荻部 陽歌	第21回関東・東北北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭発表）
チンパンジーの栄養を改善する：科学的根拠に基づく栄養管理の適用	伊藤 香緒里	第23回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭発表）
チンパンジーにおける麻酔下での人工授精の成功例について	佐藤 澄音	第70回動物技術者研究会（口頭発表）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
グレビーシマウマの下垂体中間葉機能不全症の一例	<u>高橋 尚大、チェンバーズ ジェームズ</u> (東京大学大学院)、 <u>太田 香織</u> 、 <u>戸田 光亮</u> 、 <u>吉本 悠人</u> 、 <u>宮嶋 海</u> 、 <u>内田 和幸</u> (東京大学大学院)	第28回日本野生動物医学会大会 (ポスター発表)
死亡した動物園動物の線維芽細胞から褐色脂肪細胞への低分子化合物を用いた直接誘導の検討	<u>堀田 美玲</u> 、 <u>鹿江 恭子</u> 、 <u>佐野 宙矢</u> (東京農業大学)、 <u>鈴木 雄祐</u> 、 <u>竹田 正裕</u> 、 <u>中村 智昭</u> (伊豆シャボテン公園)、 <u>白砂 孔明</u> (東京農業大学)、 <u>太田 香織</u> 、 <u>戸田 光亮</u> 、 <u>吉本 悠人</u> 、 <u>宮嶋 海</u> 、 <u>佐藤 早織</u>	第28回日本野生動物医学会大会 (口頭発表)
栄養改善から繁殖に至るまで～ミナミコアリクイでの取り組み～	<u>伊藤 香緒里</u> 、 <u>小川 美紀</u>	第5回野生動物保全繁殖研究会大会 (口頭発表)
雌個体からの隔離期間における雄アジアゾウの繁殖生理状態の変化	<u>高柳 真世</u> 、 <u>藤本 卓也</u> 、 <u>楠田 哲士</u> (岐阜大学)	第5回野生動物保全繁殖研究会大会 (口頭発表)
チンパンジー凍結精液の保存を重ねる取り組み	<u>高柳 真世</u> 、 <u>下川 優紀</u> 、 <u>伊藤 香緒里</u> 、 <u>野田 瑞穂</u> 、 <u>原 樹子</u> 、 <u>荒 井寛</u>	第5回野生動物保全繁殖研究会大会 (ポスター発表)
Treatment of a coronary band abscess in a greater one-horned rhinoceros	<u>太田 香織</u>	15 th Asian Society of Conservation Medicine (口頭発表)
モグラの胴体動作解析と旋回機構の研究—モグラ型地中探査ロボットの研究・開発—	<u>大郷 竜也</u> (日本工業大学)、 <u>川上 壮太郎</u> 、 <u>中里 裕一</u> (日本工業大学)	ロボティクス・メカトロニクス講演会2022 (論文)
多摩動物公園におけるM99 1年間の使用報告	<u>吉本 悠人</u>	第34回大型動物麻酔研究会 (口頭発表)
東京都におけるニホンヒキガエルの移入とカエル合戦の現状について	<u>長谷 和子</u> (総合研究学大学院)、 <u>高柳 真世</u> 、 <u>橋本 浩史</u> 、 <u>小川 裕子</u> 、 <u>古橋 保志</u>	爬虫両棲類学会報 2022 (2)
東京ヒキガエルの繁殖状況: 西日本亜種の侵入と局所個体群絶滅の危機	<u>長谷 和子</u> (総合研究学大学院)、 <u>高柳 真世</u> 、 <u>橋本 浩史</u> 、 <u>小川 裕子</u> 、 <u>古橋 保志</u>	日本生態学会第70回全国大会 (ポスター発表)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
Improving nutrition for Chimpanzees	伊藤 香緒里	30 th SEAZA Conference(口頭発表)
多摩動物公園のチンパンジーにおける人工授精の一例	中島 麻衣、野田 瑞穂、 田口 陽介、 <u>倉持 浩(東京大学)</u> 、高柳 真世、 原 樹子	動物園水族館雑誌 第64巻 第4号
多摩動物公園におけるアカガシラカラスバトの自然繁殖への取り組み	小島 善則	どうぶつと動物園 2022年夏号(2022.7)
チンパンジーの栄養を改善する科学的根拠に基づく栄養管理の適用	伊藤 香緒里	どうぶつと動物園 2022年秋号(2022.7)
カブトムシだけで十分おもしろいおもしろさの発見・伝え方の工夫・実物で見せるための飼育方	木下 哲、植田 彩容子、 佐々木 愛子、 岩淵 けい子	どうぶつと動物園 2023年冬号(2023.1)
飼育下の雌雄シャモアにおける糞中のステロイドホルモン動態から見た繁殖の季節性と妊娠	<u>吉田 智紀、楠田 哲士(岐阜大学)</u> 、 <u>下川 優紀、織田 拓(岐阜大学)</u>	日本野生動物医学会誌28巻 1号

③ 葛西臨海水族園（合計12件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
オンラインプログラムでも楽しい学びを～動物園・水族園のオンラインプログラムの可能性	雨宮 健太郎、天野 未知、 堀田 桃子、大河原 陽子	第34回建設局技術業務体験発表会（口頭発表）
オンラインの利点を活かしたフィールドプログラム	戸村 奈美子、田中 隼人、 市川 啓介、村松 茉由子、 大河原 陽子、笹沼 伸一、 増渕 和彦、 遠藤 周大	第63回日本動物園水族館教育研究会（口頭発表）
水槽内でのシマイセエビの産卵誘発について	加藤 舞	2022年度関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会(口頭発表)
ケイマフリの基礎的な繁殖生態調査	野島 大貴	葛西臨海水族園・北海道海鳥センター 共催講演会「つどえ オロロヘン！」 (口頭発表)
ケイマフリの基礎的な繁殖生態調査・沿岸魚類相調査	野島 大貴、小川 悠介	環境省羽幌自然保護官事務所「天売オロロン集会」(口頭発表)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
天売島におけるケイマフリの基礎的な繁殖生態調査	野島 大貴	北海道地方環境事務所「令和4年度ウミガラス保護増殖検討会」(口頭発表)
飼育係がこっそり教える ウミガラスのひみつ	野島 大貴	川口市立科学館「たまご展～命をつつむカプセル～」特別サイエンスショー(口頭発表)
キングペンギンの遊泳における水かきと尾羽の流体力学研究	<u>海野 怜司</u> (東京農業大学)、 <u>田中 博人</u> (東京工業大学)、野島 大貴・ <u>菊地 デイル</u> 万次郎(東京農業大学)	日本行動学会第41回大会(口頭発表)
国内で飼育されるコガタペンギンの集団遺伝的特徴—これからも日本でコガタペンギンに会いたい！	<u>樋口 綾</u> 、 <u>大久保 倫子</u> 、 <u>平山 博樹</u> (東京農業大学)、野島 大貴、 <u>相馬 幸作</u> (東京農業大学)	日本鳥学会2022年度大会(口頭発表)
水槽内で孵化したメンダコの子	小味 亮介、松村 茉由子	第67回水族館技術者研究会(口頭発表)
新展示「イキモノマヂカ」をつくる	天野 未知、幅 祥太、齋藤 未奈子	どうぶつと動物園 2022年夏号(2022. 7)
ケイマフリの生息域外保全を見すえた繁殖生態調査	野島 大貴	どうぶつと動物園 2022年夏号(2022. 7)

④ 井の頭自然文化園(合計11件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
北村西望の「石膏直付け法」における近代塑造技法の転換点	土方 浦歌	第75回美術史学会全国大会(口頭発表)
ウォークスルー形式の展示における生物の脱出を防ぐインターロック錠の活用—「リスの小径」を例に	大河原 陽子	第21回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会(口頭発表)
クロツラヘラサギの種卵移動と自然育雛	村上 咲葵	第22回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会(口頭発表)
Quality of Cauda Epididymal Sperm Immediately after Collection and after Freezing-Thawing from Amur	<u>Tatsuya HORI</u> , Hideo TAJIMA, Shinichi SASAKI, Mizuki KARASAWA, Madoka YOSHIZAWA, Takuya	The Journal of Veterinary Medical Science 85(1): 117 - 122, 2023 2023 年 85 巻 1 号 p. 117-122

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
and Tsushima Leopard Cats (<i>Prionailurus bengalensis euptilurus</i>)	KURIBARA, Hidemasa HORI, Fujio YAMAMOTO, <u>Etsuo</u> <u>NARUSHIMA</u> , <u>Kiyoshi NAGAI</u> , <u>Kazuaki NIPPASHI</u> , <u>Yurie</u> <u>SATAKA</u> , <u>Masato KOBAYASHI</u> , <u>Masanori KOBAYASHI</u> , <u>Toshihiko TSUTSUI</u>	
市販の忌避剤噴霧と粘着シート設置を併用したサシバエ成虫対策の効果	杉田 務、伊藤 達也、 石田 翼、寺原 昭生	第70回動物園技術者研究会 (口頭発表)
特設展示『60年の眠りから覚めた幻の水草 イノカシラフラスコモ』の紹介	田辺 信吾、児玉 雅章、堀田 桃子、 <u>加藤 将 (新潟大学)</u>	水草研究会誌No. 114 (2023年1月号)
武蔵野市野外彫刻ツアー概要、記録、所見	土方 浦歌、 <u>滋野 佳美 (武蔵野市立吉祥寺美術館)</u>	武蔵野市立吉祥寺美術館発行『武蔵野市の＜公共彫刻＞を考える—武蔵野市野外彫刻ツアーを通して—』
北村西望石膏原型修理報告書 作品解説及び論考、聞き取り調査、文献・所蔵作品リスト作成	<u>森 淳一 (東京藝術大学)</u> 、 土方 浦歌他	井の頭自然文化園発行『時の内部をさわる 森淳一による北村西望修復プロジェクト—北村西望論集』
石膏原型コレクションの保存と調査研究	<u>折井 貴恵 (川越市立美術館)</u> 、土方 浦歌他	東京造形大学発行『美術館と学芸員 1 学芸員課程講義録』
サシバエ対策 シカを「虫刺され」から守るために	杉田 務	どうぶつと動物園 2022年春号 (2022. 4)
井の頭自然文化園のデザイン改革	北村 直子	どうぶつと動物園 2022年春号 (2022. 4)

⑤ 総務部（合計4件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
学校の授業に活かせる動画集の制作とその利用状況	馬島 洋	第63回 日本動物園水族館教育研究会 (口頭発表)
水族館におけるオンラインを活用したプログラム開発、学校教育との連携	天野 未知	日本学術会議オンラインワークショップ 「持続可能な社会の創り手を育てる学び～SDGsの達成に資するカリキュラムの開発に向けて～」(口頭発表)
第8章オンラインでつながる・オンラインで学ぶ	<u>朝岡 幸彦 (東京農工大学)</u> 編、天野 未知	学文社出版「動物園と水族館の教育 SDGs・ポストコロナ社会における現在地」

※下線は外部研究者

(3) 共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京都立大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本医科大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
ウナギ種苗研究グループ	東京動物園協会	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システム実証事業研究
名古屋市東山総合公園	東京動物園協会	動物園事業の発展及び野生動物保全にかかる連携と協力に関する協定
北海道大学大学院獣医学研究院繁殖学教室	東京動物園協会	希少野生動物の保全繁殖に関する研究
東京大学大学院農学生命科学研究科獣医病理学研究室	東京動物園協会	病理学検査に関する研究
日本医科大学 動物生産化学教室	上野動物園	ライチョウの域外飼養技術の開発に関する研究 －飼育飼料の検討－
日本医科大学 動物生産化学教室	上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究 －飼育飼料の検討－
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	上野動物園	希少動物の保全繁殖

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
明治大学	上野動物園	動物装着型データロガーを用いた定量的行動観察 (オオカワラヒワ)
麻布大学	上野動物園	動物装着型データロガーを用いた定量的行動観察
東京農工大学	上野動物園	動物園におけるサシバエの吸血生態に及ぼす動物 の影響
立命館大学	上野動物園	動物園における夜行性動物の展示照明に関する研 究
株式会社東芝ライテック	上野動物園	両生爬虫類館ガラスドームにおける日中の照明設 備のあり方における研究
東京都健康安全研究セ ンター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆 除対策）
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
横浜市環境創造局繁殖 センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
カマキリ研究グループ	多摩動物公園	外来種「ムネアカハラビロカマキリ」に関する 研究
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本医科大学 動物生 産化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	カンガルーの口腔内及び腸内細菌叢と疾病の関 連性に関する共同研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサ ワラシジミ）
帯広畜産大学、東洋大学、 大阪産業技術研究所	多摩動物公園	飼育下哺乳類の乳汁成分について研究
日本医科大学	多摩動物公園	動物園における野生動物の侵入とマダニ寄生リ スクの調査
日本医科大学	多摩動物公園	飼育下ネコ科動物の腎疾患罹患状況及び死因調 査、腎疾患予防を目的とした栄養学的研究
公益財団法人横浜市緑の 協会よこはま動物園ズー ラシア	多摩動物公園	北米からのチーター導入による国内飼育個体群の 遺伝的多様性の保全、個体群動態等への影響調査
京都大学、小笠原自然文 化研究所	多摩動物公園 上野動物園	アカガシラカラスバト保全のためのゲノム解析

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京農工大学農学部	多摩動物公園	哺乳動物の精子形成メカニズム解明と体外精子生産技術の開発
東北大学大学院生命科学 研究科	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱室装置及び小型水槽用脱室モジュールに関する共同研究
北海道大学	葛西臨海水族園	飼育動物の QOL 評価を目的とした包括的研究
株式会社海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
日本大学生物資源科学 部海洋生物資源科学科 水圏生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京農業大学、東京工業 大学、東北大学	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の流体力学に関する研究
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるペンギン科およびウミスズメ科の遺伝的多様性に関する研究
自然科学研究機構基礎 生物学研究所	葛西臨海水族園	動物行動学（マトウダイ）に関する研究
東京大学および北里研 究所	葛西臨海水族園	水族館飼育魚および飼育水の環境 DNA モニタリング技術の開発
北海道大学・バードライ フ・インターナショナル	葛西臨海水族園	刺し網による海鳥混獲の削減を目指した研究
新潟薬科大学	葛西臨海水族園	飼育下動物における適正な薬物治療に関する研究
日本医科大学	葛西臨海水族園	飼育動物が感染した非結核性抗酸菌（NTM）の同定と発生環境の調査
岡山理科大学	葛西臨海水族園	ペンギン類の水棲適応に伴う骨内部構造の変化について
岐阜大学	井の頭自然文化園	希少動物の保全繁殖
株式会社共立電照およ び株式会社共ショウ	井の頭自然文化園	水槽用 LED 照明の開発

(4) 飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び4園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

3. 動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

(診療件数及び検疫件数)

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
上野動物園	18,030	66	24	65
多摩動物公園	8,380	86	18	46
葛西臨海水族園	134	26	0	0
井の頭自然文化園	3,437	64	11	22

〔２〕野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における 保全活動 (域外保全)	① ニホンコウノトリ、トキは、多摩動物公園を中心に高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② アカガシラカラスバトは、毎年順調に繁殖しており、緊急保護個体を繁殖個体群に取り込むとともに、飼育繁殖技術の向上により自然繁殖もすすみ、飼育下個体群形成が順調に進んでいる。 ③ オガサワラシジミは、多摩動物公園で累代繁殖および周年飼育に成功したが、令和２年８月に飼育下個体群が途絶えた。環境省の科学的な検証（令和３年）により、近交弱性（遺伝的多様性の損失）が原因と判明した。新たな保護個体の収容に備えた体制を整えている。 ④ オガサワラカワラヒワは減少が著しく環境省及び東京都による保全の取り組みが始まった。上野動物園では現地施設での飼育環境整備や飼育繁殖に協力するとともに園内で近縁亜種を飼育し調査研究を行っている。 ⑤ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、小笠原諸島の陸産貝類（カタマイマイ、アナカタマイマイ）の飼育を４園で開始した。関係機関との情報共有を図るとともに、両種の飼育繁殖に取り組んでいる。 ⑥ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで平成27～28年に野生卵を入手し、それらを基に飼育繁殖に着手し、山岳地帯への適応に伴う特殊な生理生態について、連携する関係者とともに解明に取り組んでいる。令和元年３月には公開展示が始まり、保全の取り組みや山岳環境の重要性や保全の普及啓発を推進している。 ⑦ 東京産両生類では、希少種も含め、繁殖に継続して成功している。一方では、まだ繁殖できない種もある。遺伝的多様性に配慮し、繁殖個体の園間交換をすすめ、４園で分担・連携して取り組んでいる。
フィールドにおける 保全活動 (域内保全)	① 多摩市のアカハライモリ生息地において、生息状況調査や生態調査を継続して実施し、生息個体数を増加させることに成功するとともに、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルは、原因は不明であるが、ほぼ絶滅に近い状態であることがわかってきた。事前に４園の飼育下に確保していた個体群で繁殖を推進している。また、減少要因を探るために放飼場を活用した育成実験を開始した。令和4年4月に多摩園内で保護した１個体から、西日本からの移入であるニホンヒキガエル型の遺伝子が検出され、多摩動周辺地域における初確認となった。 ③ アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携しミトコンドリアDNAの解析を実施している。

項 目	内 容
生物学技術を応用した保全活動	① DNA解析により、性判別（鳥類・哺乳類）を多数行い、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカの地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での亜種間交雑状況の調査を継続して行っている。また、多頭同居飼育しているアカカンガルーでは、親子関係を解析し、血統管理に役立てている。 ② 自然交配ができないチンパンジーから採取した精子を用いて人工授精に成功した。また、精子の凍結保存において、実用性を期待できる質かつ量の保存取り組みをチンパンジーで進めている。 ③ 性ホルモンを測定し、インドサイ、アジアゾウ、ミナミコアリクイ等の繁殖周期の把握、生理解明に役立てている。
調査研究・情報収集	例年海外で開催される会議などにも積極的に参加し、研究発表や情報収集、交流に取り組んでいる。新型コロナウイルスのためにWEB開催などとなっていた会議などで対面形式が復活してきた。令和4年度は世界動物園水族館協会や東南アジア動物園協会の総会に参加した。
普及啓発活動	① 東京動物園協会が取り組む保全活動を、入園者にも広く伝えるため、多摩動物公園で「すすめ！地球生命隊-ともに生きる未来へ-」を常設展示している。 ② ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコの日」にちなむ活動を継続して実施している。 ③ 野生生物保全センターの普及啓発事業は、「都立動物園における保全とは？」をテーマにアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえ、職員がわからないとか、疑問に感じている点などを考える情報発信をした。 ④ 1月22日に、IPPM-OWSのコウノトリ保全セミナー2023「コウノトリ保全活動最前線！一再導入個体群の管理と課題」を開催した。
保全への協力	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS；任意団体）の構成員として、また事務局の一員として他の加盟機関と連携し、保全活動を推進した。兵庫県立コウノトリの郷公園や千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力し、有精卵の提供や移送などの支援を実施している。

〔3〕教育普及事業

教育普及センターを中心に、4園の連携を一層強化し、大人から子どもまで幅広い来園者を対象に、動物の魅力や地球環境保全の重要性を伝える多様な教育普及プログラムを企画・実践した。また、学校団体や教員向けの教育普及プログラムや教材を充実させ、学校教育との連携を強化した。これらの活動においては、SNSによる情報発信やオンラインプログラム、オンライン教材の開発に積極的に取り組み、ポストコロナ社会に向けて動物園・水族園の役割の一つである社会教育機能を充実させた。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

教育普及センターが中心となり、4園間の定期的な会議やテーマを設けた教育普及ワーキンググループによる情報共有や課題の抽出を行いながら綿密な連携体制をとり、多様な教育普及活動を展開した。

また、プログラム参加者へのアンケート調査や事例研究による評価検証・評価手法の検討を連携して行い、教育普及活動の改善へとつなげた。連携して行った主な教育普及活動は以下のとおりである。

(1) 教育機関との連携体制の充実、強化

① 小学校向け教育普及活動の周知

夏季開催の教員向け「授業に活かせる動物園・水族園講座」（後述）の告知とともに、4園の小学校向け遠隔授業やデジタル教材等を紹介するパンフレットを都内小学校1,517校に郵送し、小学校の利用促進につなげた。

② 学校教員ヒアリングの実施

小学校・中学校に出向き、4園の小中学校向けの教育普及活動を紹介するとともに、学校での動物園水族館の利用状況や学校飼育動物の現状、DX化の状況などをヒアリング（合計4件31名）し、その結果を4園で共有した。

(2) 生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等

① 伊豆大島・井の頭自然文化園・上野動物園 巡回特設展「あんこさんとゾウ——戦争が終わった！ゾウがやってきた！」

戦後の移動動物園と大人気であったゾウをテーマに平和とはなにか、動物園とはなにかを考える巡回展を伊豆大島（大島町開発総合センター）・井の頭自然文化園・上野動物園で開催した。

会場1：伊豆大島 大島町開発総合センター1階ロビー（実施期間：7月21日～8月31日）

会場2：井の頭自然文化園 ゾウ舎（実施期間：9月13日～12月17日）

会場3：上野動物園 ゾウのすむ森（実施期間：12月20日～2月12日）

② いきものの 未来のために できること——都立動物園・水族園SDGsデジタルクイズラリー

SDGs（持続可能な開発目標）とその達成に向けた4園の取組みについて、スマートフォンを利用したクイズラリーを開催した。クイズラリー期間中に多摩と葛西で関連企画として園長によるSDGsトーク等を実施した。この企画に先立ち、職員のSDGsの理解を深めることを目的に専門家による講演会や各部署の取り組みを紹介する動画の制作・配信を行った。

クイズラリー実施期間：11月10日～3月5日

関連企画実施日：多摩 1月3日、葛西 1月9日

職員向け講演会：10月3日

「はじめよう SDGs ～都立動物園・水族園が取り組むためのヒント～」

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 蟹江憲史 教授

職員向け研修動画：第一部：12月10日配信、第二部：10月27日配信

「都立動物園・水族園の未来のかたちをかんがえる」

第一部「リーダーにきいてみよう！！」：4園長・理事長のお話

第二部「各業務のリーダーにきいてみよう！！」：各業務の課長のお話

③ 教育普及ふれあいシンポジウム～モルモットを介した学びを考える～

モルモットのふれあい活動における動物福祉と教育普及活動の両立を目的に、国内の動物園水族館の職員を対象にしたシンポジウムを開催した。前半は、都立3園を含む動物園7園でのモルモットを介した教育プログラム(プログラムのねらいや動物福祉への配慮、科学的モニタリング、課題)事例の紹介、後半はグループワークでモルモットを介したプログラムの在り方や課題、今後の方向性について議論した。

実施日：11月21日 対面とオンラインのハイブリッドで開催

申込数：71園館110名(対面30名、オンライン80名)

内容：前半)会場である井の頭のもるもっふれあいコーナーの見学後、横浜市立野毛山動物園、埼玉県こども動物自然公園、足立区生物園、天王寺動物園、都立動物園3園でのプログラム紹介。

内容：後半)会場とブレイクアウトルーム(オンライン参加者)それぞれでのディスカッション。前半後半でメンバーを入れ替え、2回のグループワークを実施。

④ 4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」

2月2日の世界湿地の日にともない、4園が連携し、各園の特徴を活かして湿地環境の重要性やそこにくらす生き物たちの魅力を伝えるプログラムを実施した。

上野：観察プログラム「こども向け不忍池のカモカウント体験」

実施日：2月5日

参加者：17名

多摩：観察プログラム「守りたい！ トンボ池の生きものたち」

実施日：2月23日鳥インフルエンザで閉園のため中止

井の頭：身近な水辺保全講演会「イノカシラフラスコモの復活が示すこと」

実施日：2月18日 ※対面とオンラインのハイブリッド形式

講演1「井の頭公園における水草の衰退から再生まで ～土壌シードバンクってなに？～」

講演2「井の頭自然文化園で取り組むイノカシラフラスコモの域外保全と生育調査」

参加者：41名

葛西：身近な水辺保全講演会「魚はなぜ減った？——身近な水辺の声を聞く」

実施日：2月26日 ※対面とオンラインのハイブリッド形式

講演1「魚はなぜ減った？ ～実体顕微鏡と過ごした6ヶ月、その30年後～」

講演2「葛西臨海水族園のゼニタナゴ保全の取り組みについて」

参加者：35名

⑤ 東京動物園水族園教育普及研究会

4園で行われている教育普及活動について情報共有を図り、担当する園や業務の枠を超えて横断的に振り返る機会を設けることを目的に、各園の教育普及活動の事例を報告する動画を作成し配信した。

配信日：2月28日

発表1：普及啓発プログラム「ゴリラの危機とスマートフォン」の実施について

仲村賢（上野動物園 飼育展示課 東園飼育展示係）ほか

発表2：世界ゴリラの日の情報発信と意識調査

鈴木佐知子（上野動物園 教育普及課 教育普及係）ほか

発表3：コロナ禍におけるホタル観察会

渡辺良平（多摩動物公園 教育普及課 昆虫園飼育展示係）

発表4：多摩動物公園の新しいふれあいプログラム「おしえてモルモット博士！」の事例紹介

近藤奈津子（多摩動物公園 教育普及課 昆虫園飼育展示係）ほか

発表5：オンラインの利点を活かしたフィールドプログラム

戸村奈実子（葛西臨海水族園 飼育展示課 教育普及係）ほか

発表6：北村西望の「石膏直付け法」における近代塑造技法の転換点

土方浦歌（井の頭自然文化園 教育普及係）

発表7：学校の授業に活かせる動画集の制作とその利用状況

馬島洋（総務部 教育普及センター 教育企画係）

（3）ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム

障がいをもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動であるドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウムを4年ぶりに対面で開催した。開催をお知らせするチラシを東京都内とその周辺の障がい者施設・特別支援学校等に郵送し、広く周知した。

上野：9月3日、閉園後に西園のみで開催、事前募集で724名の参加があった。

多摩：6月4日、閉園後に開催、事前募集なしで3,390名の参加があった。

井の頭：6月6日、休園日の昼間に開催、悪天候のため27名の参加となった。

葛西：6月25日、閉園後に開催、事前募集で417名の参加があった。

（4）「国際生物多様性の日」等の特別な日に、4園で共通のテーマで催し物を実施した。

〇〇の日	実施日	内 容
飼育の日	4/19	各園が4月19日の前後に飼育係のとおき写真展や飼料室の仕事を紹介する動画配信、飼育スタッフによるスペシャルガイドツアーなど、様々な視点から飼育の仕事を紹介する教育プログラムを実施した。
国際生物多様性の日	5/22	4園で多様な分類群の多様な種を飼育展示していること

		を活かし、SNSによる動物しりとりを実施し、多様な動物の魅力を発信した。
文化財ウィーク	10/29～11/6	東京文化財ウィーク期間中に各園で飼育展示している天然記念指定動物を紹介し、解説カードを配布した。
ふれあい動物の日	11/20	教育普及ふれあいシンポジウム～モルモットを介した学びを考える～を11月21日に開催した(前述)。
世界湿地の日	2/2	各園が2月2日の前後に飼育展示種や園内の自然環境を生かし、湿地環境の重要性やそこにくらす生き物たちの魅力を伝える観察会や講演会を開催した(前述)。

(5) オンライン上の学習コンテンツの充実

こども動物園(上野)でのモルモットふれあいプログラム(もっと知りたいモルモット)に参加する学校団体向け事前学習用動画や特設コンテンツ「東京Zoovie」内の観察ポイント動画、新規展示にあわせたVRやアニメーションの更新などオンライン上の学習コンテンツの充実に取り組んだ。

「東京Zoovie」内の小学生向け観察ポイント動画は下記のとおりである。

公開日	紹介種
4/6	ここみてね! アナグマ
4/6	ここみてね! ジャイアントパンダ
7/28	ここみてね! ツシマヤマネコ
7/28	ここみてね! ハナミノカサゴ
7/28	ここみてね! オオゴマダラ
8/26	ここみてね! ミナミメダカ
9/29	ここみてね! ライオン
10/27	ここみてね! アジアゾウ
11/29	ここみてね! タイリクオオカミ

(6) オンライン上での各種プログラムの開催

4園のオンラインプログラムや動画制作・配信の技術習得や質の向上のために、必要な機材リストの作成・共有や教育普及センターが中心となり各園でのオンラインプログラムのサポートを行った。

2. 定例プログラム

(1) 園内プログラム

従来、対面で実施してきた園内プログラムについては、感染防止対策を図り、来園者が安心して参加できる方法を検討しながら段階的に再開した。また、モルモットふれあいプログラムについては感染予防対策だけではなく動物福祉との両立のために、動物園3園の担当者がふれあいワーキンググループをつくり、プログラムの試行やモルモットのストレス・利用者評価を行いながら新たなプログラムで再開した。

園 名	内 容（実施回数・対応人数）
上 野	・動物解説員によるガイドツアー：スポット形式（60回・1,996名） ・キーパーズトーク：子ども動物園すてっぷ（121回・1,565名） ・お帰り前のキーパーズトーク：子ども動物園すてっぷ（13回・228名） ・モルモットとなかよし：子ども動物園すてっぷ（90回・1,147名）
多 摩	・動物解説員によるガイドツアー：スポット形式（51回・545名） ・モルモットとのふれあい（321回・4,854名）
葛 西	・スポットガイド「ペンギン・海鳥・マグロ・サメ」（2,724回・95,137名） ・イキモノマヂカ（518回・89,899名） ・東京シーライフボランティアーズによるスポットガイド（9回） ・東京シーライフボランティアーズによる紙芝居（6回）
井の頭	・動物解説員によるガイドツアー：ミニガイド（76回・1,940名） ・学芸員による彫刻園ギャラリートーク（49回・456名） ・みてみてエサの時間だよ（459回・9,135名） ・モルモットふれあいコーナー（556回・6,853名） ・東京動物園ボランティアーズによるスポットガイド（7回・506名） ・東京動物園ボランティアーズによる工作教室（1回・49名） ・「あずきの会」との共同企画によるおはなし会（7回・280名）

（２）動物相談室の運営

上野動物園、多摩動物公園内の動物相談所において、入園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園 名	来 園	電 話	書 簡	計
上 野	402件	2,976件	0 件	3,378件
多 摩	601件	517件	1 件	1,119件

３．特別プログラム

自然科学への探求心、動物園や野生生物に関する知識を深めるとともに、地球環境保全意識の向上を図ることを目的とした様々なプログラムを実施した。展示動物の観察やフィールドでの観察など、実体験を重視した対面でのプログラムを再開するとともに、オンラインでしか参加できない利用者向けのオンラインプログラムも継続した。また講演会の一部は対面でもオンラインでも参加可能なハイブリッド形式で実施し、より多くの方の参加を可能にした。

（１）実施した主な参加型プログラム

園 名	内 容（実施日）
上 野	・うへのZOOスクール小学1・2年「ぬりえでまなぼう『動物たちのほんとの色』」（7/30、31）オンライン ・うへのZOOスクール小学3・4年、5・6年「自分だけの『おもしろ動物図鑑』をつくらう」（8/6、7、20、21）オンライン ・うへのZOOスクール盲児クラス（10/1） ・うへのZOOスクール中学生対象「足から探る鳥のくらし」（12/17、18）

園 名	内 容 (実施日)
多 摩	・体験プログラム「カブトムシ教室」(7/30、31、8/1) ・オータムスクール1～3年「みんなでめざそう！モルモット博士」(10/2) ・オータムスクール4～6年「手をみつめよう！手・足からわかること」(10/23) ・中高生対象オンラインプログラム「サイエンズカフェー将来の夢が動物園ってあり？」(3/12) オンライン
葛 西	・幼児向けプログラム 「進め！海のいきものたちーうみにいこう！」(6/18) ・小学1・2年向けプログラム 「いきものことはじめー海でくらすカニたち」(6/19) ・小学3・4年向けプログラム 海のあそびやー生き物のすみかを探検！」(7/17) ・小学5・6年向けプログラム 集まれ！汐こたちー西なぎさで生き物探索！」(7/18) ・高校生・大学生向け講座「海の学び舎2021」第1回「身近な湿地帯と生物多様性」(7/24) オンライン
井の頭	・文化園いきものクラブ 第1回「井の頭池いきものたんけん」(8/21) ・大学生のためのズーカレッジ (9/16～19)

(2) 実施した主なクイズラリー、スタンプラリー等

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・クイズで発見！しっぽのいろいろ (1/29、2/5)
多 摩	・新年イベント 2023「ノウサギクイズ」(1/2～31)
葛 西	・水族園のお正月2023「魚っ兎！とぶ！？生き物クイズラリー」(1/2、3)
井の頭	・セルフガイドシート「ぴょん ぽん ぴょーん！文化園ウサギめぐり2023」(1/2～2/5)

(3) 特定の日や期間に実施した主なプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・世界ゴリラの日企画「9/24は運命の分かれ道！あなたが握るゴリラの未来」 飼育係のおはなし「ゴリラの危機とスマートフォン」(9/23～25)、使用済み携帯電話・スマートフォン回収ボックスの設置 (9/23～10/30) など ・シャンシャン返還企画「花ひらけパンダの未来ーありがとうシャンシャン」 オンライン講演会配信「シャンシャンの歩みとパンダの未来」(1/28～3/31)、企画展「花ひらけパンダの未来ー保全へのみちのり」(1/17～2/26) など ・140周年企画「もっと身近に！SDGsフェア」 買って・食べて貢献する「SDGsプチマルシェ」、世界野生生物の日記念企画「君もアニマルレンジャー！密輸や密猟から動物たちを守ろう！」(3/3～5) など
多 摩	・世界ゾウの日企画 パネル展「飼育係がみた野生のゾウたち」(8/1～30)、ボランティアによるイベント「ゾウをよくみてビンゴ」(8/12～14)、「世界ゾウの日」限定オリジナル商品販売、YouTube動画配信「多摩動物公園×世界ゾウの日 ゾウのウンコを育ててみたら」など ・第8回都立動物園アフリカフェア パネルディスカッション「ケニアにおける野生

園 名	内 容 (実施日)
	動物の過去、現在、未来」(11/5)、アフリカ音楽とダンスを楽しむ会 (11/6)、アフリカ文化体験「ビーズワーク」(11/5、6) など
葛 西	・開園記念日イベント「見る、聞く、学ぶ 海の生きもの」 「くらべるマグロシート」配布 (10/8～10)、「マグロ飼育担当によるスタッフトーク」(10/8、9)、YouTube配信「かさりん放送—初代スタッフに聞いてみた」(10/8～10、23) など ・クリスマス特別企画 スイーツツアー「海の中のオス♂メス♀事情」(12/24～25) ・「Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち」 深海スタッフトーク (2/11～12)、深海ワークショップ「深海にすむ生き物のからだ」(2/23、3/12)、深海特別メニューの販売、クイズ動画「深海でPON！」配信 (2/11～3/12) など
井の頭	・80周年記念イベント 新園長によるどうぶつえんガイド「井の頭が取り組む野生動物の保全」動物解説員による「文化園歴史たんけん」(5/21、22)、夜の動物園DE新旧園長トーク (10/9)、これまでも これからも 緑と水辺のまちのどうぶつえんライブ！(3/5) オンライン など ・ヤマネコ祭2022 (10/29～30) 飼育係のいきものガイド@ヤマネコ祭、ヤマネコを描こう！おえかき教室、ヤマネコおはなし会、ヤマネコにだいへんしん！ など

(4) 実施した主なフィールドプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・真夏の夜の動物園特別イベント 野生のコウモリ観察会 (8/11、15) ・世界湿地の日企画 こども向け不忍池のカモカウント体験 (2/5) ・都立公園150周年記念イベント It's My Park Dayみんなで公園日和2月「みんなでバードウォッチング日和」(2/23)
多 摩	・ホタル観察会 オンライン教室 (6/12) 観察会(6/17、19)
葛 西	・東京の海を知る第1回「東京湾のアマモ場と干潟を訪ねる」(7/3) ・「キミもトビハゼ調査隊！」(7/10) オンライン
井の頭	・身近ないきもの探検「夜の文化園でさがせ！セミの羽化のひみつ」(8/6)、「植物の実やタネは どうやって どこへいくの？」(11/6)

(5) 実施した主な講演会

園 名	内 容 (実施日)
上野	・パンダ来園50周年記念講演会「ジャイアントパンダの『いま』を知る」(10/30) オンライン ・世界ゾウの日企画YouTubeライブ配信「動物園が未来のゾウたちにできること」(8/12) オンライン
多 摩	・干支のオンライン講演会「ニホンノウサギの生態：知っているようで知らないウサギの話」(1/8) オンライン
葛 西	・講演会「ペンギンの性事情」(3/4) 対面とオンライン ・講演会「つどえ オロロ～ン！」(8/21) 対面とオンライン

園 名	内 容（実施日）
	・身近な水辺保全講演会「魚はなぜ減った？～身近な水辺の声を聞く」（2/26）対面とオンライン
井の頭	・ツシマヤマネコ保全講演会「アジアで取り組むヤマネコの保全：いま、できること、つなげていくこと」（10/29）対面とオンライン ・身近な水辺保全講演会「イノカシラフラスコモの復活が示すこと」（2/18）対面とオンライン

4. 園内での情報発信

動物展示前での情報提供の基本である種ラベルについては、ワーキンググループをつくり記載内容やデザインの検討を行った。各種の絶滅危機度やズーストック種情報を記載した種ラベルへの更新を多摩より開始した。その他、各園で常設の解説サインの一部を更新し、印刷物や特設展等でより詳しい情報提供を行った。

（1）ニュースレターや解説パンフレット等の発行

園 名	内 容
上 野	・ジャイアントパンダ普及啓発リーフレット「1864 in the wild」 ・ZOO TODAY（4・5月合併号、6月号～3月号）
多 摩	・動物新聞（No. 345～No. 355）
葛 西	・SEA LIFE NEWS（第103号～第108号）
井の頭	・飼育係からのお便り（5月号～12月号）開園80周年記念限定企画 ・井の頭自然文化園の樹木 開園80周年記念 ・アトリエ館セルフガイド

（2）実施した主な特設展、特設掲示

園 名	内 容（実施日）
上 野	・140周年企画 開園140周年の歴史を振り返る大型パネル展示（5/24～3/31）、飼育係による解説パネル展「見たい！知りたい！どうぶつえん」（7/26～8/28） ・干支の企画パネル展「かいめい！ カイウサギ」（12/9～） ・巡回特設展「あんこさんとゾウー戦争が終わった！ゾウがやってきた！」（12/20～2/12）
多 摩	・企画展 カブトムシ展「カブトムシってどんなむし？」（7/21～8/30） ・世界ゾウの日パネル展「飼育係がみた野生のゾウたち」（8/1～30） ・干支の企画展「だあれ??」（12/15～2023/5/9）
葛 西	・「つどえ オロロ～ン！」パネル展（8/1～30）
井の頭	・水生物館特設展示「60年の眠りから覚めた幻の水草 イノカシラフラスコモ」（7/15～10/2） ・資料館特設展「ぷ～、きゅっきゅ、だいへんしん！—松本壮由のバルーンといきも

園 名	内 容（実施日）
	の広場」（8/13～28） ・Art and the Zoo vol.7「黒沼真由美展—レースで編む日本のいきもの」（9/6～11/13） ・彫刻園企画展「北村西望と朝倉文夫—二人の関係性」（9/9～1/15） ・巡回特設展「あんこさんとゾウ——戦争が終わった！ゾウがやってきた！」（9/13～12/17）

5. 学校教育との連携

学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や児童、生徒等を対象とした学習プログラム、学習補助教材の貸出しや提供等を行なった。オンラインの学習教材や研修教材の開発、オンライン授業や出張授業、オンラインによる教員向け研修会なども引き続き継続した。

（1）教員を対象としたプログラム

① 授業に活かせる「動物園・水族園」講座

教員が授業を行う上で参考となる生物学的な知識やそれに関連したスキルを提供する研修講座を実施した。オンライン開催の講座と対面開催の講座の両方を実施した。

実施園	講座名	実施日	参加者
上 野	校庭の植物から考える 日本の動物の一年（オンライン）	7月25日	18名
		7月26日	13名
	動物の食べ方と消化（オンライン）	7月28日	17名
		7月29日	17名
多 摩	4年理科 動物の骨と筋肉	8月2日	11名
		8月5日	17名
	3年理科 昆虫を知ろう	8月8日	14名
		8月9日	13名
葛 西	生き物観察が楽しくなる！魚で学ぶ生き物の見方	8月1日午前	11名
		8月1日午後	7名
	干潟で体験！生きものと環境を知る	8月12日	25名
井の頭	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	7月27日	12名
		8月4日	16名
	井の頭池で調べる水辺の生きもの	8月10日	10名
計			201名

② 授業に活かせる動画集

学校の授業中に活用できる単元に即した動画のYouTubeでの公開を継続した。一部の動画は新規に作成したり、内容を修正したりした。

対象教科	タイトル	制作園
小学校 国語	たまどうぶつこうえんのキリンの赤ちゃん	多 摩
	とりのくちばし（うえのどうぶつえん）＊	上 野
	とりのくちばし（たまどうぶつこうえん）	多 摩
	どうぶつの中のまもりかた（うえのどうぶつえん）ひらがな	上 野
	どうぶつの中のまもりかた（うえのどうぶつえん）カタカナ	上 野
	うみのかくれんぼ～オニダルマオコゼ～**	葛 西
	うみのかくれんぼ～オクヨウジ～**	葛 西
	うみのかくれんぼ～カレイのなかまプレイス～**	葛 西
	スイミーのくらし	葛 西
	たまどうぶつこうえんのじゅういのいちにち	多 摩
小学校～中学校 理科	きせつと生物（ニホンジカの一年①毛のへん化）**	上 野
	きせつと生物（ニホンジカの一年②角のへん化）**	上 野
	きせつと生物（ニホンザルの一年）	上 野
	動物たちの食べかた ①アジアゾウ	上 野
	動物たちの食べかた ②キリン	上 野
	動物たちの食べかた ③ホッキョクグマ	上 野
	動物たちの食べかた ④カリフォルニアアシカ	上 野
	動物たちの食べかた ⑤ジャイアントパンダ	上 野
	動物たちの食べかた ⑥ふんをくらべてみよう	上 野
	動物たちの食べかた ⑦ウマ*	上 野
	みちかな虫をさがそう	多 摩
	いろいろな虫をよびよせよう！バナナトラップ編	井の頭
	カブトムシの一生を知ろう！	多 摩

*新規に制作した動画、**内容を修正した動画

③ 生き物飼育についての先生向け研修動画

生き物の飼い方をテーマにした教員向けの研修動画のYouTubeでの公開を継続した。

タイトル	制作園
モンシロチョウの飼い方	多 摩
学校で飼育してみよう！——メダカ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ザリガニ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ヤゴ編	葛 西

④ その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名（実施日・対応人数）
多 摩	・東京都小学校理科教育研究会「カブトムシの観察と飼育」（6/17・20名）

	・日野市教育センター「苦手な先生のための昆虫スキルアップ」(11/1・12名) ・日野市教育センター「動物の体のつくり：頭編」(12/2・11名)
葛 西	・文京区小学校理科部会教員研修「学習使用の方法と生き物の見方」(8/23・57名)
井の頭	・墨田区立両国中学校「中堅教諭等資質向上研修」(8/24～26・1名) ・東京都小中学校環境教育研究会「井の頭池における外来種問題」(2/4・20名)

(2) 児童・生徒・学生などを対象としたプログラム(大学・専門学校含む)

園 名	内 容	件数・対応人数
上 野	団体見学指導	22件・422名
	団体ふれあい体験指導(子ども動物園)	35件・455名
	出張授業・講師派遣	4件・291名
	オンライン授業	46件・3,670名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	677件
	職場体験	0件・0名
多 摩	団体見学指導	115件・7,536名
	団体ふれあい体験指導(モルモット教室)	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	6件・732名
	オンライン授業	14件・804名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	733件
	職場体験	8件・25名
葛 西	団体見学指導	119件・6,966名
	出張授業・講師派遣	2件・230名
	オンライン授業	24件・1,992名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	765件
	職場体験	7件・22名
井の頭	団体見学指導	82件・4,247名
	団体ふれあい体験指導(モルモットふれあいコーナー)	受け入れ休止
	出張授業・講師派遣	3件・330名
	オンライン授業	11件・779名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	240件
	職場体験	6件・12名

(3) 教材の貸出・提供、教育プログラムの開発

① 学校団体向け教材の配布と提供

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生き物を見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を配布した。

園 名	内 容 (件数・対応人数)
上 野	貸出教材 ・ わくわく観察バッグ (47件・2649名) ・ クイズdeスタンプ (34件・3,639名) ・ テーマ別見学ワークシート (27件・2,219名)
	提供教材 ・ 観察ガイドブックレット (ダウンロード教材)
多 摩	貸出教材 ・ 動物ふしぎ発見ポケット (158件・12,470名) ・ 紙芝居セット (86件・6,839名) ・ DVD (7件・530名) ・ スタンプ (16件・2,106名)
	提供教材 ・ 動物クイズ (151件・14,221名) ・ 昆虫ポケット (40件・3,878名) ・ 観察シート (6件・575名) ・ セルフガイドブックレット (2件・36名)
葛 西	提供教材 ・ 事前学習用DVD (325件) ・ 水族園魚タッチングシート (ダウンロード教材)
井の頭	貸出教材 ・ 事前パネルセット (11件・669名) ・ 頭骨等標本 (4件・474名)
	提供教材 ・ 事前教材キット (379件・21,021名) ・ 個別教材 (10件・1,015名)

② 中高生向けの冊子の配布、「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集

「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」は、引き続き、東京ゾーンネットからダウンロードできるようにした。「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集チラシを印刷し、「活用ガイド」とともに都内と近県の生物部や科学部などがある高等学校(457校)に郵送した。

「動物園・水族園レポートチャレンジ」には、12月までに、中学生8組、高校生23組からの応募があり、最優秀作品賞を2組(中学生2組)に、奨励賞を3組(中学生1組、高校生2組)に贈った。

(4) 大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内 容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習	41名	—	9名	4名	54名

獣医臨床実習	—	—	—	—	—
博物館実習	22名	9名	12名	5名	48名
特別実習（研究・卒論）	—	6名	—	1名	7名
インターンシップ（都立大）	—	2名	—	—	2名

② 講義・見学指導（オンライン・出張授業を含む）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・ 明治大学政治経済学部地域行政学科「地域研究インターンシップ」（12/11・1名） ・ 東京大学農学部「比較解剖学実習での見学」（1/11・27名）
多 摩	・ 帝京科学大・アニマルサイエンス実習「動物福祉と動物園動物」（4/18・32名、4/19・32名）出張授業 ・ 日本獣医生命科学大学獣医学科・獣医保健看護学科「比較発達心理学実習」（5/6・41名、5/20・46名、5/26・50名、6/3・44名、6/9・50名、6/10・44名） ・ 東京農工大学農学部共同獣医学科「動物病院の診療業務」（6/21・7名） ・ 埼玉動物海洋専門学校「アジアゾウ見学指導」（6/30・30名） ・ 東京農工大学「昆虫園見学指導」（6/30・14名） ・ 東京農工大学農学部共同獣医学科「動物園獣医の仕事および保全センター（保全班）の仕事」（7/5・7名） ・ TCA東京eco動物海洋専門学校「見学指導」（7/9・52名、7/16・56名） ・ 帝京科学大学「アニマルウェルフェア、環境エンリッチメント」（7/14・45名） ・ 日本野生動物医学会学生支部「動物園・水族館の役割や仕事」（9/8・25名） ・ 大阪ECO動物海洋専門学校「動物園で働く人」（9/29・10名）オンライン ・ 東京動物専門学校「多摩動物公園の特徴・動物園で働く」（10/14・116名） ・ 東京都立大学「見学指導」（10/15・15名） ・ 明治大学政治経済学部地域行政学科「地域研究インターンシップ」（11/6・2名） ・ 国立音楽大学幼児音楽教育専攻「生きものへの親しみを持たせるプログラム」（11/17・27名） ・ 専修大学「スポットガイド」（12/10・14名） ・ 東京農工大学農学部共同獣医学科「獣医倫理」（12/12・39名）オンライン ・ 白百合女子大学「観察指導」（12/17・10名） ・ 帝京大学教育学部初等教育学科「解説員のプログラムと教材の体験」（1/17・10名）
葛 西	・ 埼玉動物海洋専門学校「解説班と移動水族館の仕事」（10/11・19名） ・ ちば愛犬動物フラワー学園（10/20・16名） ・ 明治大学政治経済学部地域行政学科「地域研究インターンシップ」（11/12・1名） ・ 文教大学国際学部「博物館実習生への見学指導」（11/26・5名）
井の頭	・ 共立女子大学「彫刻園のレクチャー」（5/28・48名） ・ 武蔵野大学幼児教育学科・教育学科「教材を利用した見学」（6/4・101名、7/9・120名、7/16・48名、12/3・48名、12/10・26名） ・ 明治大学「彫刻園ガイド」（6/26・12名） ・ 明治大学政治経済学部地域行政学科「地域研究インターンシップ」（11/25・2名）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
	・アジア・アフリカ語学院「園内ツアーガイド」（3/9・18名）

（５）一般財団法人東京学校支援機構（TEPRO：ティープロ）を介した学校支援

学校が求める支援とそれを提供できる人材をつなぐ制度「ティープロ サポーター バンク」へ団体として登録し出張授業やオンライン授業の依頼を受ける窓口とした。令和４年度の実施例はなかった。

６．アウトリーチ

他団体が開催する催し物等で、園外に飼育生物や資料を持参して解説を行ったり、観察会を実施したりする教育プログラム。一部のプログラムはオンラインにより実施した。

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・御徒町駅南口商店街「シタマチゴールデンウィークフェスタ：WE LOVEパンダ！トークショー」（5/1） ・国立国会図書館国際子ども図書館「トラの飼育員さんのお話し」（11/20・26名と保護者） ・国立科学博物館「教員のための博物館の日での展示」（1/21）
多 摩	・イオンモール多摩平の森「キッズパークたまどうモリモリパネル展」（7/15～8/21） ・東京都産業労働局「東京観光財団オンラインツアー：夏休み探検ツアー ～モノレールの車両基地と動物園の裏側へ！～（8/21・89名） オンライン
井の頭	・三鷹ネットワーク大学「干支にまつわるエトセトラ：兎にも角にも、ウサギのはなし」（12/7）

７．移動水族館

葛西臨海水族園では、普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、移動水族館専用車を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施した。

実施回数	延べ参加者数
43回	3,656名

８．友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：4,103名 ジュニア：213名（令和５年３月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務

	② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「ZOO! どうぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布
--	---

（１）友の会会員対象催物

感染症拡大の影響を受け、2020年以降オンラインによる教育普及事業を実施してきたが、参加者の安全を考慮しながら講演会や観察会、他施設の見学会などの実地開催を再開した。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
ホタル観察会 ①オンライン教室 ②園内観察会	① 6月12日 ② 6月17日・19日	事前にオンラインでゲンジボタルの生態等について学び、別日に日没後の園内でホタルを観察。 企画：多摩動物公園	一般含 ①61組 ② 6/17：19組37名 6/19：18組36名
干支のオンライン講演会	1月8日	4園の最近の話題。 講演「ニホンノウサギの生態：知っているようで知らないウサギの話」：斎藤昌幸（山形大学農学部准教授） 企画：多摩動物公園	一般含 260組
友の会一般会員限定講演会	1月29日	講演「日本書紀の鳥について」：山岸哲（大阪市立大学名誉教授） 企画：多摩動物公園	72名
井の頭池の水鳥観察会	2月12日	井の頭池の水鳥を観察。 企画：井の頭自然文化園	19名
友の会一般会員限定講演会（オンライン）	2月26日	講演「上野動物園のゴリラ飼育と野生のゴリラについて」：仲村賢（上野動物園飼育展示課） ※アーカイブ動画限定公開 企画：上野動物園	70組
岐阜の自然と世界の淡水魚をたずねる見学会	3月11日	岐阜県の河川環境楽園を訪れ、自然発見館での指導員の解説のあと、アクア・トトぎふでツアーと自由観覧。 企画：葛西臨海水族園	18組29名

(2) ジュニア会員対象催物

開催園	実施月日	内容	参加者
多摩動物公園	6月18日	ホタル観察会	20組40名
葛西臨海水族園	9月25日	なぎさ観察会	15組31名
上野動物園	10月15日	ぬりえで学ぼう“動物たちのほんとの色”	15組31名
井の頭自然文化園	3月21日	ニホンリス観察会	19組38名

(3) 「友の会の日」の実施

「友の会の日」は、感染拡大防止のため懇親会は実施せず、葛西臨海水族園内でスポットガイドやガイドツアーなどを行い、参加者に自由に観覧していただいた。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
友の会の日	9月17日	会場：葛西臨海水族園 ・特別スポット見学 ・ガイドツアー	159組 276名

9. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

感染拡大防止のため図書コーナーは休室し、代替措置として資料の複写郵送サービスを実施した。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	109	88	16	0	5	0	0	収蔵数 和書 14,024冊 洋書 4,248冊
雑 誌 類	382	175	64	75	60	4	4	

(2) 図書利用一覧

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	12	3	0	0	0	0	1	2	18件

(都立動物園水族園関係者は除く)

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	47件	194点	86件	261点	133件	455点
ビデオ映像	6 件	29点	46件	94点	52件	123点
音 声 資 料	0 件	0 点	9 件	22点	9 件	22点
計	53件	223点	141件	377点	194件	600点

(都立動物園水族園関係者は除く)

10. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4変型判・約54頁／約5,000部／春・夏・秋・冬号（Vol.74-2～Vol.75-1） ・春号は開園80周年を迎える井の頭自然文化園を特集した。園の見どころをはじめ、園内デザイン改革の裏側、サシバエ対策等を掲載した。 ・夏号は多摩のアカガシラカラスバト自然繁殖の取組や、葛西の特設展示「イキモノマヂカ」、ケイマフリの繁殖生態調査等を掲載した。 ・秋号はジャイアントパンダ来園50周年にちなんで双子パンダの誕生と成長や、多摩のチンパンジー栄養管理の取組等に関する記事を掲載した。 ・冬号は上野でのミヤコカナヘビ保全の取組や、多摩でのカブトムシ飼育から得られた知見、干支のぬいぐるみ開発等に関する記事を掲載した。 ・その他、研究や保全活動の最新知見として、ハコネサンショウウオ属の新分類、モズの「はやにえ」の習性、ミズダコ漁と海洋資源の持続可能性に関する記事等を掲載した。
ZOO! どうぶつえん しんぶん	A4判・8頁／約600部／8月・2月発行 ・第28号（8月発行）は「ハキリアリ」を特集した。葉を切って巣に運んで菌を育てるユニークな生態をはじめ、コロニー内の分業システムや生活史、動物園での飼育の工夫などを紹介した。 ・第29号（2月発行）は「バク」を特集した。上野動物園のアメリカバクと多摩動物公園のマレーバクを取り上げ、体の特徴や水を利用する生態、飼育担当者が解説するバクの魅力などについて紹介した。

(2) 葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4頁／25,500部／第103号～第108号（6回）発行 ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布するとともに東京ズーネットサイトで公開した。
	第103号 チューブスナウトの繁殖行動、「西なぎさ」調査2021まとめ、他
	第104号 メダカのはなし、ゼニタナゴ展示の取り組み、他
	第105号 特設展示「イキモノマダカ」オープン記念特集、他
	第106号 「サンゴ礁の海」水槽をつくる、他
	第107号 稚魚から育てたメダイの展示、シマイセエビの抱卵とふ化、他
	第108号 バランスよく給餌をするために、他

(3) 高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」に年間（春号～冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した（感染拡大防止のため表彰式は開催せず、高碕賞受賞記事を東京ズーネットサイトで公開した）。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	多摩動物公園におけるアカガシラカラスバトの自然繁殖への取り組み	夏号	小島 善則	多摩動物公園
奨励賞	上野動物園のミナミコアリクイ	春号	花澤 伸枝	
	上野動物園のハシビロコウ	夏号	吉岡 真一	
	上野動物園のニホンザル	秋号	平賀 雅枝	

1.1. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、Twitter（6アカウント）、YouTube、Instagramを通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

(1) ウェブサイト「東京ズーネット」の運営 (<https://www.tokyo-zoo.net/>)

都立動物園・水族園の公式サイトとして、基本情報としての利用案内をはじめ、動物に関する最新情報や各園イベント情報、動物に関する基礎知識、各園の見どころや動物の紹介、保全への取り組みなど、様々な情報を提供した。140周年を迎えた上野動物園については「上野動物園 この10年」と題

して15回の連載記事を掲載した。80周年を迎えた井の頭自然文化園については特設ページを公開し、イベント告知の他、地域コラボ企画や来園者からのメッセージを掲載した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和3年度	令和4年度
ページビュー数	51,261,395	44,523,418
ユニークユーザー数	15,137,240	7,449,417

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
ニュース&イベント	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園イベント情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取り組みを紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ゾーンネットBB	動物の様々な行動の動画配信（令和5年3月31日現在計1,153点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	友の会に関する案内や発行雑誌の紹介
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
どうぶつえんデジタルライブラリー	都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
東京Zoovie: Maps & Tours	グラフィカルなマップを入口として4園のバーチャルツアー映像や動画によって園内の見どころを案内するとともに、日本や世界の生き物について学べる教育普及情報を配置したコンテンツ
都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ	各園の動物展示の見どころ、写真に撮りたくなるような景色、おすすめのギフト商品、少しマニアックなスポット等を解説付きで紹介するコンテンツ
ガイドアプリ	上野動物園と葛西臨海水族園をガイドする都立公園ガイドアプリ「Tokyo Parks Navi」の紹介

ページ名	内 容 等
幼児向けコンテンツ 「Kids and Zoo」	おもに幼児を対象に、多摩動物公園の動物を取り上げ、ぬりえやひらがな練習等のワークシートや動画を通じて、来園のきっかけや観察の視点を提供
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチング シート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
モルモット ふれあいコーナー	井の頭自然文化園モルモットふれあいコーナー事前学習ムービーによる紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

(2) ウェブサイト「UENO-PANDA.JP」の運営 (<https://www.ueno-panda.jp/>)

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体ならびに過去に飼育した個体の情報、飼育係によるレポート、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取り組みやジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、さらには壁紙ダウンロードコーナーや企業協賛の募集等のコンテンツ等、豊富な情報を掲載した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和3年度	令和4年度
ページビュー数	8,790,007	4,231,008
ユニークユーザー数	1,819,839	1,141,098

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している4頭の個体紹介
ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A

保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊猫的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（３）Twitter による情報発信

SNS媒体「Twitter」を活用し、４園と東京ズーネット及び教育普及センターの６アカウントから、積極的に情報を提供した。

アカウント		フォロワー数	
		令和４年３月末	令和５年３月末
上野動物園	@UenoZooGardens	1, 067, 358	1, 093, 157
多摩動物公園	@TamaZooPark	251, 397	262, 739
葛西臨海水族園	@KasaiSuizokuen	186, 320	192, 021
井の頭自然文化園	@InokashiraPark	146, 317	150, 205
東京ズーネット	@TokyoZooNet_PR	448, 157	449, 548
東京動物園協会教育普及センター	@TZPS_EduCenter	11, 206	11, 437

（４）YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ズーネット公式チャンネル」「葛西臨海水族園公式チャンネル」「東京ZoovieYouTubeチャンネル」で動画配信を積極的に行った。

（５）Instagramによる情報発信

都立動物園・水族園の公式 Instagram アカウント (@tokyo_zoogram) を活用し、写真や動画を中心とした積極的な情報発信を行った。フォロワー数 17, 417（令和５年３月 31 日現在 ※令和２年 7 月 20 日開設）。

令和４年３月 20 日に上野動物園が開園 140 周年を迎えるにあたり、期間限定 Instagram アカウント (@ueno_zoo_140th) を開設（令和４年３月 9 日～５年３月 19 日までを予定）し、140 周年事業に関わる情報発信を行った。140 周年期間終了後はアカウント名を「@ueno_zoo_official」へ変更し、上野動物園の情報発信媒体として運用継続することとした。フォロワー数 17, 175（令和５年３月 31 日現在）

（６）メールマガジンによる情報発信

プッシュ型メディアであるメールマガジンを活用し、「ズー・エクスプレス」を隔週で計27号（No. 843～869）を配信した。登録数2, 907（令和５年３月31日現在）。

12. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) ビデオ撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報をビデオ映像として撮影記録し、入園者向けニュースや各種研究発表として上映・提供するほか、ウェブサイト「東京ゾーネット」「UENO-PANDA. JP」において配信した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
オランウータン、コアラ、レッサーパンダ	3分3秒	多摩	ダウンロード用として提供
友の会の日用園長トーク	5分57秒	上野	イベント放映用
上野、多摩、葛西の代表動物33種	53分57秒	上野、 多摩、 葛西	イベント放映用
ジャイアントパンダのワークショップ	8分17秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	7分13秒	上野	イベント放映用
キリンのアカリ搬入	4分10秒	多摩	資料として提供
ジャイアントパンダ双子の成長とシャン シャンの東園から西園移動	8分33秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダシャンシャンの東園から 西園移動	1分37秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダの近況	4分10秒	上野	資料として提供
ニホンライチョウ、アジアゾウ、ジャイ アントパンダ	5分9秒	上野	資料として提供
カエルの鳴き声	16分25秒	上野	展示場放映用
世界ゴリラの日トークイベント	20分36秒	上野	資料として提供
コツメカワウソのウラのカオイイベント	38分57秒	上野	ゾーネット配信用
アジアゾウアルン	1分22秒	上野	Twitter配信用
マレーバクの鳴き声	10秒	多摩	資料として提供
サーバル親子、レッサーパンダ親子	2分15秒	多摩	ダウンロード用として配信
ジャイアントパンダ近況	1分33秒	上野	資料として提供
ウミガメ	21秒	葛西	イベント放映用

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ近況	4 分	上野	資料として提供
アジアゾウ同居	1 時間 8 分 31秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダシャンシャントレーニング	48秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ双子	2 分36秒	上野	ズーネット配信用
チリメンナガクビガメ	1 分23秒	上野	ズーネットBB配信用
フサオネズミカンガルー	1 分25秒	多摩	ズーネットBB配信用
水辺の鳥	1 分22秒	葛西	ズーネットBB配信用
上野新正門と再開園	2 分 7 秒	上野	ズーネットBB配信用
アジアゾウ	1 分 8 秒	多摩	ズーネットBB配信用
オランウータン	2 分39秒	多摩	ズーネットBB配信用
新しいキリン舎	1 分13秒	多摩	ズーネットBB配信用
メキシコドクトカゲ	1 分16秒	上野	ズーネットBB配信用
オジロワシ	1 分45秒	多摩	ズーネットBB配信用
キリン搬入	4 分10秒	多摩	ズーネットBB配信用
ハキリアリ	4 分27秒	多摩	ズーネットBB配信用
コアラ	1 分35秒	多摩	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダシャンシャン誕生日	2 分10秒	上野	ズーネットBB配信用
シマスカンク	2 分40秒	上野	ズーネットBB配信用
チンパンジー	2 分 3 秒	多摩	ズーネットBB配信用
ホテル	1 分24秒	多摩	ズーネットBB配信用
コウモリ観察会	2 分59秒	上野	ズーネットBB配信用
ナイトオブワンダー	1 分10秒	葛西	ズーネットBB配信用
ニホンカモシカ	2 分10秒	多摩	ズーネットBB配信用
ミヤコカナヘビ	2 分 1 秒	上野	ズーネットBB配信用
ペリカン	2 分19秒	多摩	ズーネットBB配信用
マレーバク	1 分32秒	多摩	ズーネットBB配信用
ニホンカモシカ親子	1 分15秒	井の頭	ズーネットBB配信用
サマーナイト	2 分27秒	多摩	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
キリン	2 分13秒	上野	ズーネットBB配信用
ライオン	1 分42秒	多摩	ズーネットBB配信用
夜間開園	1 分40秒	井の頭	ズーネットBB配信用
双子パンダ自由観覧	2 分36秒	上野	ズーネットBB配信用
アジアゾウアルン2歳	1 分43秒	上野	ズーネットBB配信用
マイワシ	1 分35秒	葛西	ズーネットBB配信用
ライオン親子	1 分41秒	多摩	ズーネットBB配信用
アフリカゾウ砥夢	1 分47秒	多摩	ズーネットBB配信用
アムールヤマネコ	1 分25秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ウサギ	1 分14秒	多摩	ズーネットBB配信用
コウノトリ	1 分54秒	多摩	ズーネットBB配信用
タヌキ	1 分21秒	多摩	ズーネットBB配信用
アイゴ	1 分21秒	葛西	ズーネットBB配信用
キリン収容	1 分54秒	多摩	ズーネットBB配信用
ガラパゴスゾウガメ	2 分 7 秒	上野	ズーネットBB配信用
ペンギン	1 分28秒	葛西	ズーネットBB配信用
オウサマペンギンのヒナ	1 分 2 秒	葛西	ズーネットBB配信用
ライオンバス訓練	3 分 7 秒	多摩	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダリーリー	1 分 2 秒	上野	ズーネットBB配信用
動物脱出対策訓練	2 分14秒	多摩	ズーネットBB配信用
タイリクオオカミ	1 分 7 秒	多摩	ズーネットBB配信用
コウイカ	1 分23秒	葛西	ズーネットBB配信用
ボラ	1 分32秒	葛西	ズーネットBB配信用
モウコノウマ	1 分12秒	多摩	ズーネットBB配信用

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ (4月11日)	2分49秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (4月25日)	5分43秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月9日)	3分56秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月9日)	30秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月23日)	5分9秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月11日)	1分31秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月13日)	3分45秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月27日)	5分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月11日)	3分15秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月25日)	5分33秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月8日)	3分44秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月23日)	5分44秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (9月5日)	3分35秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (9月26日)	5分37秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (10月17日)	5分41秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (11月7日)	20秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (11月21日)	5分47秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (12月19日)	5分45秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (12月19日)	20秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (1月16日)	5分37秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月13日)	5分39秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月19日)	2分24秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月21日)	2分53秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (3月13日)	3分22秒	上野	報道発表資料

〔４〕市民・団体との協働事業

１．ボランティアとの協働

園内で展示動物の解説等や入園者案内等のボランティア活動を行う「東京動物園ボランティアーズ（TZV）」（活動場所：上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、登録者数658名）と「東京シーライフボランティアーズ（TSV）」（活動場所：葛西臨海水族園、登録者数109名）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入園者に対面する活動は休止としていたが、感染対策をとり一部の活動を再開した。TZVのサービスガイドグループについては、コロナ禍の影響等により活動人数が減少したため、新規会員募集を行うための支援を行った。

「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」は３年ぶりに活動を再開し、植栽の手入れや落ち葉清掃などを行った。「NPO法人樹木・環境ネットワーク」は多摩動物公園での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う臨時休園期間中は活動を休止したが、開園期間中は樹木の維持管理作業等を行った。

（１）ボランティア会員を対象とした研修会

園 名		内 容	参加者数
TZV TSV	上野 多摩 井の頭 葛西	「都立動物園・水族園の未来のかたちをかんがえる」第一部・第二部、「教育普及ふれあいシンポジウム・モルモットを介した学びを考える」	YouTube 動画配信 (限定公開)
TZV	上野	都立大学の子ども向けジャイアントパンダ講座「子どもたちへのパンダからのメッセージ」上映会	131名
	多摩	モルモットふれあいシミュレーション・研修、ハキリアリ勉強会	155名
	井の頭	ヒツジの毛刈り見学、モルモットふれあい事前研修、ヤマネコガイド・ヤマドリガイド・ボトルウォッチング事前学習、カタマイマイ勉強会、いきもの広場研修会、屋外彫刻メンテナンス報告と書道展見どころ紹介	190名
TSV	葛 西	東京の海エリアとペンギン生態の今、西なぎさ生き物観察、大洋の航海者の今、飼育係目線でみるペンギンの観察ポイント、しおだまりの生き物観察、東京の海観察ポイント	97名

（２）ボランティアとの協働による教育活動等

園 名		内 容
TZV	上野	特別活動（ジャイアントパンダ、アジアゾウ等）
	多摩	ふれあいコーナー活動、アジアゾウ観察用ビンゴ配布等
	井の頭	ヤマネコガイド・ヤマドリガイド等
TSV	葛 西	紙芝居、東京の海、しおだまり等

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	491名 649口	8名 9口	10名 16口	9法人 11口	7,093,000円
多 摩	185名 258口	6名 7口	15名 15口	3法人 5口	2,872,500円
葛 西	22名 23口	3名 4口	0名 0口	1法人 1口	300,000円
井の頭	69名 84口	3名 3口	2名 3口	3法人 9口	1,306,500円
合 計	767名 1,014口	20名 23口	27名 34口	16法人 26口	11,572,000円

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

開催園	実施月日	内 容	参加者
葛西	5月21日	収支報告、ガイドツアー、飼育係とのQ&A	4名
上野	8月28日	資金使用事例紹介（オンライン） ※アーカイブ動画配信 最終視聴者数447	59名
井の頭	11月27日	園長の動物園ガイド、近況報告・収支報告	25名
葛西	2月18日	収支報告、擬卵塗装体験、ガイドツアー、飼育係とのQ&A	27名
上野	3月19日	教育普及課長挨拶、東園自由見学	241名
多摩	3月18日	収支報告、園内ガイドツアー（中止）	—

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園 名	実 施 事 項
上 野 動 物 園	①アイアイ採食エンリッチメント用特別食導入 ②アイアイ他エンリッチメント用具の導入 ③アザラシプラ舟導入 ④アメリカバイソン真砂土導入 ⑤オオサンショウウオ擬岩・擬木導入 ⑥オカピ・キリン火山礫導入 ⑦オグロプレーリードッグ真砂土他導入

	⑧クマ舎バークチップ敷均し ⑨クマ舎・サル舎檜杉丸太導入 ⑩コビトカバ赤土導入 ⑪コモンマーモセット・ワタボウシタマリンダブルケージ導入 ⑫ゴリラ遠赤外線ヒーター導入 ⑬ゴリラ・スマトラトラ土留め用丸太導入 ⑭サルヒヒ舎立木ベース設置 ⑮スバルバルライチョウ舎・バードハウス川砂導入 ⑯スマトラトラ放飼場ガラス窓飛散防止加工施工 ⑰ニホンリス展示窓補修改善 ⑱ハダカデバネズミ展示飼育用ケース導入 ⑲バードハウス雨除け導入 ⑳バードハウス・バードケージ中目砂導入 ㉑ふたば牧場放飼場砂導入 ㉒ミミセンザンコウバークチップ交換敷設
多摩動物公園	①アカカンガルートリカルネット導入 ②アジアゾウ給餌エンリッチメント用具導入 ③アフリカゾウ給餌エンリッチメント用具導入 ④アフリカゾウ風除けゴム板設置 ⑤オランウータン毛布導入 ⑥キジ・ハト・アオバトエンリッチメント用具導入 ⑦キリン給餌エンリッチメント用具導入 ⑧キリン段差解消スロープ設置 ⑨グレビーシマウマ給餌エンリッチメント用具導入 ⑩シロテテナガザル展示改善用エンリッチメント用具導入 ⑪チーター展示場遮光シート張替え ⑫チンパンジースポットクーラー導入 ⑬チンパンジー腎臓機能強化用給餌食導入 ⑭チンパンジー毛布導入 ⑮ニホンザル空調設備設置 ⑯モウコノウマエンリッチメント用具導入 ⑰ワライカワセミ冷蔵庫の導入
井の頭自然文化園	①カリガネ舎放飼場砂敷設 ②シカ舎床面補修 ③資料館げっ歯展示ケージ・架台導入 ④水生物館水草育成用LED照明導入 ⑤フェネック放飼場珪砂敷設 ⑥ヤギ木製遊具設置 ⑦ヤマネコ舎外付けHDD導入

3. 関係団体への協力

(1) 国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）に事業援助のため寄付を行った。

(2) 関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

〔加入団体〕

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
〃	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	(一社)日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	日本動物心理学会	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(公社)日本造園学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	日本鳥学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(公財)日本動物学会	〃	日本動物園水族館教育研究会

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金等を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	19,083,319円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	10,522,154円	①園内広告協賛 ②ロゴマーク、キャラクターライセンス使用
ドネーション商品 売上金からの寄付金	14,424,691円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% （「ありがとうシャンシャン」CD/DVDは80%） アイテム数：57点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：179,818点

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及啓発活動	誕生日記念企画（双子パンダの1歳を祝う会等）、ジャイアントパンダ来園50周年企画、シャンシャン返還イベントほか	14,390,314 円
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育環境の向上	パンダのもりにおける飼育環境の充実（屋外放飼場カウンター扉・竹用冷蔵庫スプリンクラーの設置、双子展示のための放飼場改修、体重計・観察用PC購入） 東園パンダ舎冷房装置増強	19,191,480 円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000 円

③ 基金残高

基金残高	147,929,295円（令和5年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（令和5年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	今 村 保 雄	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯 川 れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟名誉会長
委 員	副 島 建	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

〔運営委員会〕

回	開催月日	議 題
第1回	7月11日	(1) 令和3年度決算報告について (2) 現在の飼育状況について (3) 令和4年度基金進捗状況について
第2回	2月13日	(1) 令和4年度基金進捗状況について (2) 令和5年度基金事業・予算（案）について

(2) 東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。令和5年度の助成対象活動募集にあたっては、「一般部門」・「中高校生部門」に加え、「東京動物園協会保全パートナー部門」の募集もおこなった。

基金PR活動としてポスターとチラシを作成して全国の大学や博物館、研究施設、NPO、SSH、理科教育に関心の高い都立高校等に送付して本助成制度を広くアピールしたほか、各園で配布するパンフレットを新たに作成した。また、新たな寄付方法として（株）ヤフーが提供する日本最大級の寄付ポータルサイト「Yahoo!ネット募金」へプロジェクト参加するなど、クレジットカード決済によるオンライン寄付システムの運用と併せて、幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

〔令和4年度〕

＊令和4年2月1日～2月28日公募。令和3年度内に助成対象を決定し、令和4年度に助成金交付。

＊新型コロナウイルス感染症の影響により活動に支障の出た助成対象者に、最長で令和6年3月31日までの活動期間の延長を認めた（承認件数：1件）。

【一般部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
国内に生息する野鳥の鉛汚染状況の実態調査	調査研究	牛根奈々	860,000円
野生動物における身体的ストレスおよび心理的幸福度の評価法に関する研究	調査研究	大和 修	1,000,000円
トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究	調査研究	河原 淳	770,000円
刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～	調査研究	一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京	443,480円
オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究（継続）	調査研究	特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄	1,000,000円
年齢構造解析とゲノムワイドなSNP解析によるヤエヤマハラブチガエルの保全生態学的研究	調査研究	戸金 大、秋田耕佑、阿南一穂	998,600円

【中高校生部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
奈良・グリーンヒル生駒におけるツバメの子育て研究	調査研究	奈良女子大学附属中等教育学校	293,970円

【東京動物園協会保全パートナー部門】（継続）※令和3年度から2年目

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に	岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室（動物園生物学研究センター）	1,000,000円

② 収入の状況

寄付金	1,721,171円	企業・個人からの寄付（収益事業からの繰入れ除く）
-----	------------	--------------------------

③ 基金残高

基金残高	92,696,667円（令和5年3月31日現在）
------	--------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員〕（令和5年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	齋 藤 勝	元・上野動物園園長、動物園ゴリラ基金運営委員
副 委 員 長	今 村 保 雄	公益財団法人東京動物園協会 理事長
委 員	田 畑 直 樹	公益財団法人日本動物愛護協会 理事長
委 員	内 田 純 子	東京動物園ボランティアーズ第4期生
委 員	平 岡 考	公益財団法人山階鳥類研究所 広報ディレクター
委 員	山 崎 晃 司	東京農業大学 教授
委 員	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授、沖縄大学地域研究所 特別研究員

〔審査委員会〕※感染拡大防止のため、審査委員会は書面開催とした。

書面締切	議 題
3月23日	令和5年度助成対象活動選定について

⑤ 助成対象活動選定結果

※令和5年2月1日～2月28日公募。4年度内に助成対象を決定し、助成金は5年度に交付。

【一般部門】

※助成金額上限：100万円/年、助成件数：7件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
動物園の環境条件に合わせたサシバエ活動区域の特定手法の開発	調査研究	茨城大学 動物園学研究拠点プロジェクトチーム	1,000,000円
国内に生息する野生鳥獣の鉛汚染状況の実態調査（継続）	調査研究	牛根奈々	970,000円
刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～（継続）	調査研究	一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京	720,810円
オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究（継続）	調査研究	特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄	1,000,000円
国内希少野生動植物種アカモズの生息域外保全確立に向けたファウンダー導入	保全活動	長野アカモズ保全研究グループ	1,000,000円
野生メダカはいつ・どこで・どのように繁殖している？動画撮影とDNA解析から迫る	調査研究	近藤湧生	1,000,000円
アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索	調査研究	佐藤陽子	1,000,000円

【中高校生部門】

※助成金額上限：50万円/年、助成件数：合計3件程度

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
紀ノ川下流の止水域における生態系の研究	調査研究	和歌山県立向陽高等学校	400,000円
奈良・グリーンヒル生駒におけるツバメの子育て研究（継続）	調査研究	奈良女子大学附属中等教育学校	492,516円
野鳥の排泄物調査による空気中のマイクロプラスチックの影響	調査研究	東京都立科学技術高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】（令和3年より新設）

※助成金額上限：150万円/年、助成件数：1件※今年度から3年間

助成対象活動名	助成対象者	交付額
オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動	一般社団法人 Islands care	1,500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】（継続）※令和3年度から3年目（最終年度）

助成対象活動名	助成対象者	交付額
希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明——ライチョウとハシビロコウを中心に	岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室（動物園生物学研究センター）	1,500,000円

⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」成果報告会

令和3年度に完了した助成対象活動のうち9件について、前年度と同様、成果報告動画を都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」および「東京ズーネットYouTubeチャンネル」で公開（令和5年4月29日予定）のため準備を行なった。

公開月日	内 容
令和5年 4月29日予定	動画1 「日本で最も絶滅に近い鳥オガサワラカワラヒワの絶滅回避のためのカメラセンサス調査」：一般社団法人Islands care 動画2 「刺し網漁による海鳥混獲の実状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～」：一般社団法人バードライフ・インターナショナル 東京 動画3 「近年増加する記録的豪雨がもたらす、希少亜種ダイトウコノハズクへの影響の解明」：ダイトウコノハズク保全研究グループ 動画4 「茂原公園のカメについて学ぼう」：千葉県立長生高等学校 動画5 「オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの域外保全を目的とした基礎研究」：特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄 動画6 「コンゴ民主共和国ルオー学術保護とその周辺地域における野生ボノボの保全活動」：特定非営利活動法人ビーリア（ボノボ）保護支援会 動画7 「トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究」：河原 淳 氏 動画8 「給餌の影響がなくなった野外コウノトリの繁殖および分布の変化に関する研究」：伊崎実那 氏 動画9 「ヤエヤマハラブチガエルの年齢構造と遺伝学的情報に基づく地域個体群の保全優先度の検討」：戸金 大 氏・秋田耕佑 氏・阿南一穂 氏

〔５〕利用者サービス

１．入場券の売改札及び利用案内・園内サービス

（１）入場券の売改札

入場券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

（単位：人）

区 分			上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要
有 料	個 人	一 般	1,958,789	366,779	601,629	361,493	3,288,690	
		中学生	50,608	3,622	12,289	914	67,433	
		65歳以上	170,092	30,297	34,671	38,558	273,618	
		計	2,179,489	400,698	648,589	400,965	3,629,741	
	団 体	一 般	16,809	13,060	23,926	5,324	59,119	20人以上
		中学生	100	19	262	13	394	〃
		65歳以上	799	220	1,884	216	3,119	〃
		計	17,708	13,299	26,072	5,553	62,632	
	小 計		2,197,197	413,997	674,661	406,518	3,692,373	
無 料	個 人	小学生以下	640,766	241,280	400,796	227,987	1,510,829	
		中学生	21,754	3,639	18,724	7,142	51,259	都内在住在学
		計	662,520	244,919	419,520	235,129	1,562,088	
	団 体	幼 児	15,340	26,326	17,799	18,598	78,063	
		小学生	10,637	38,503	33,096	12,660	94,896	
		中学生	5,251	3,250	5,333	410	14,244	
		計	31,228	68,079	56,228	31,668	187,203	
	特 免		94,671	25,474	27,601	28,439	176,185	身体障がい者等
	その他		70,973	29,476	33,302	34,172	167,923	無料開園日等
	小 計		859,392	367,948	536,651	329,408	2,093,399	
	合 計		3,056,589	781,945	1,211,312	735,926	5,785,772	

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
上 野 動 物 園	31,080 枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多 摩 動 物 公 園	5,705 枚	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	3,205 枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	10,562 枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	50,552 枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	1,050,882,820円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多 摩 動 物 公 園	225,104,540 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	445,685,590 円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	133,756,780 円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合 計	1,855,429,730 円	

【占用料・使用料の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	1,570,082 円	占用料（写真撮影等）
多 摩 動 物 公 園	1,038,222 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	54,390 円	〃
井の頭自然文化園	296,386 円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合 計	2,959,080 円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、車椅子の貸出等のサービスや遺失物・拾得物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。

【園内利用案内】

(単位：件)

園名	迷子相談	園内放送	入園者救護	車椅子貸出	遺失物届	拾得物届
上野	280	4,345	487	1,523	657	2,737
多摩	43	3,427	213	243	455	3,356
葛西	157	2,203	140	341	472	2,241
井の頭	68	347	116	69	300	1,626
合計	548	10,322	956	2,176	1,884	9,960

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝藁等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 利用促進・PR活動

ウェブサイトやSNSによるデジタルコンテンツでの広告展開や報発信を強化し、当協会が行っている野生生物保全に関する取り組みを発信することで、集客に向けた認知拡大だけでなく、都立動物園・水族園のファンを増やす取り組みを行った。

【Visit Zoo事業の主な施策】

実施項目	内 容
春季施策	・上野動物園開園140周年および井の頭自然文化園開園80周年のPRとして、4月29日～5月8日の間、東京駅前J PタワーKITTE地下1階の東京シティアイ観光情報センターにおいて記念企画展を実施した。歴史的トピックスを当時の写真で紹介するとともに、野生生物の保全活動やSDGsに関する取組等をPRした。また、(公財)東京都道路整備保全公社が管理する新宿駅西口広場の行政情報掲示板での掲出物について、周年PRデザインに意匠を変更し、年度を通して掲出した。 ・5月1日～5月15日の間、当協会が協賛した公募型の広告賞「Metro Ad Creative Award 2021」(主催：株式会社メトロアンドエージェンシー)のグランプリほか各受賞作品を銀座線、丸の内線のギャラリートレインにて掲出した。
夏季施策	・YouTubeインストリーム広告にて、7月16日～8月14日の間、夏休期間中の集客および認知向上のため、動画広告を幅広いエリアを対象として配信した。 ・夏休期間に繁忙を迎える葛西臨海水族園の集客の促進ためのPR動画を制作し、新宿駅西口広場の大型サイネージ(約227インチ)にて放映した。 ・スマートフォン用地図アプリにおいて、8月6日～8月31日の間、ピン広告を掲出し、地図アプリ利用者への認知拡大を行った。
秋季施策	・ジャイアントパンダの上野動物園への来園50周年のPRとして、10月25日～10月31日の間、都庁第一本庁舎1階のアートワーク台座に歴代ジャイアントパンダの写真を掲出するとともに、ジャイアントパンダの保護に関する取組を紹介した。また10月25日～11月4日の間、YouTubeインストリーム広告を利用し、50周年を記念して制作した動画を幅広いターゲットに配信を行った。 ・令和3年度に公開した「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」を発展的に活用し、令和4年11月10日～令和5年3月5日の間、SDGsとその達成に向けた4園の取り組みについて楽しみながら学べる「都立動物園・水族園SDGsデジタルクイズラリー」を開催した。
冬季施策	・「都立動物園・水族園 SDGsデジタルクイズラリー」に関連し、園長によるトークやくじ引きなどを楽しめるイベントを、1月3日に多摩動物公園、1月9日に葛西臨海水族園で実施した。また、来園者によるSDGsの自分ごと化促進を図るため、2月1日～2月28日の間、4園の店舗利用者がウェブシステム上でSDGsに対し自身が取り組めることを答えてもらう「みんなのSDGs宣言」を実施した。

実施項目	内 容
	・「都立動物園・水族園 SDGsデジタルクイズラリー」のPRおよび、4園の認知拡大のために、子ども環境情報誌「エコチル」の東京版12月号に広告を掲出した（配布先：都内公立小学校1,162校、約515,000部）。また、1月2日～1月31日の間、Instagram広告およびYouTubeインストリーム広告利用し幅広いターゲットに配信した。

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・感染症対策としてのイベント休止や中止、動物展示変更情報等について、ウェブサイト及び各園Twitterアカウントにより情報を遅滞なく発信して周知した。 ・140周年を迎えた上野動物園については「上野動物園 この10年」と題して15回の連載記事を通じて情報を発信した。80周年を迎えた井の頭自然文化園については特設ページを公開し、イベント告知の他、地域コラボ企画や来園者からのメッセージを掲載してPRを図った。 ・各園の見どころや写真撮影スポット、おすすめのギフト商品等を「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」で情報発信した。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA. JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・葛西臨海水族園の混雑予想カレンダーを掲載し、快適な観覧のための情報を提供した。 ・Twitterによる4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。 ・YouTube上の「東京ズーネット公式チャンネル」において、ジャイアントパンダの最新情報他、動物園の魅力を動画を通じて配信した。 ・Instagramを4園共通アカウントとして運用し、園内や事業の魅力を伝える動画像の投稿を行った。
広 告 物	・東京都内の幼稚園・保育園へ配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版」（都内の幼稚園・保育園850園に納品、約90,000部配布）のGW号・夏休み号・秋号・冬休み号に、4園および上野動物園開園140周年と井の頭自然文化園開園80周年をPRするための広告を掲出した。 ・新宿駅西口広場の大型サイネージ（約227インチ）にて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・東京観光情報センターの4施設（東京都庁、バスタ新宿、京成上野、多摩）の

事 項	摘 要
	サイネージにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・八王子駅北口ビジョンにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・上野動物園では、5月1日～3月31日までJR上野駅構内の書店にて、上野動物園のオリジナルしおりの配布を行い、野生生物保全に関する情報発信を行った。 ・多摩動物公園では、京王動物園線車内に、8月3日～8月31日までカブトムシ展「カブトムシってどんなむし?」、12月14日～令和5年4月5日まで干支の企画展「だあれ??」の中吊り広告を掲出した。また、京王線近隣主要駅および多摩モノレール主要駅に、サマーナイトをPRするポスターを8月に掲出、アフリカフェアをPRするポスターを10月中下旬～11月6日まで掲出した。 ・葛西臨海水族園では、JR東日本と連携し、JR葛西臨海公園駅構内のディスプレイモニターにおいて展示生物を紹介する映像を放映したほか、駅に隣接する商業施設F f に葛西臨海水族園オリジナル商品のディスプレイやパンフレットの設置を1年間通して行った。また、夏休期間に合わせてPR動画を作成し、YouTubeでの動画広告により利用促進を行った。 ・井の頭自然文化園では、開園80周年事業のPRとして5月～10月の期間を中心に、近隣駅へのポスター等掲出、ウェブ広告、ラッピングバス、地元フリーペーパーへの記事広告、商店街にフラッグ設置など多様な媒体を活用し、近隣エリアに対して密度の濃い広告を実施するとともに、制作した80周年記念動画をYouTube広告や吉祥寺駅北口ビジョン、路線バス車内サイネージで放映した。また、夜間開園イベントやヤマネコ祭りのPRとして、9月～10月に近隣駅にポスター等の掲出、フリーペーパーへの記事広告、むさしのFMラジオCM等を実施した。
そ の 他	・繁忙期における休園日の臨時開園（上野8日、多摩3日、葛西6日、井の頭2日）、開園時間延長（上野11日、多摩11日、葛西9日、井の頭7日）を実施した。 ※飼育鳥類における高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う臨時休園により、多摩で予定していた3月29日の臨時開園は中止した。 ・「雨の日サービス」として、各園のTwitterを利用して展示やイベントに関する予定変更の情報、雨の日の展示動物の様子や「雨の日ならではの楽しみ方」等に関する情報発信を実施した。 ・訪日入園者の動向を把握するため、オンラインチケット購入者の国別推計調査を実施した。 ・訪都旅行者向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット「Tokyo Zoos & Aquarium」（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。

4. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

(1) 主な広報発表

園 名	発表日	件 名
上 野	5月24日	ジャイアントパンダのシャオシャオ・レイレイ・シャンシャンの誕生日記念企画「明るい未来へ！上野で生まれたパンダたち」
	5月31日	ニシゴリラのモモコが出産しました！
	7月14日	『はじまりはいつも上野から ～動物園が、未来の動物たちにできること～』夏休みは開園140周年の記念企画が盛りだくさん！
	12月23日	恩賜上野動物園シャンシャンの返還日及び観覧方法等の決定について
	1月17日	アイアイの子どもが成育中です
	その他、合計20件	
多 摩	7月7日	今年は4羽のトキが育っています 令和4年繁殖結果報告
	8月10日	レッサーパンダが生まれました！
	1月6日	タスマニアデビル「ダーウェント」が死亡しました
	2月2日	米国の動物園からチーター3頭を受け入れました
	2月14日	高病原性鳥インフルエンザが疑われる事例の発生に伴う都立多摩動物公園の臨時休園等について
	その他、合計19件	
葛 西	7月5日	世界初！！ ミナミイワトビペンギンの凍結精子を用いた人工授精の成功
	7月14日	新水槽「サンゴ礁の海」オープン！
	8月25日	オウサマペンギンのヒナが育っています！
	9月22日	開園記念日イベント「見る、聞く、学ぶ 海の生きもの」第2弾講演会「バイオロギングが解き明かすマグロの謎、サメの秘密」開催！
	1月26日	高校生・大学生向け講座「海の学び舎2022」第3回「ウミシダって動物？臨海実験所の技術職員が行う棘皮動物研究」開催！
	その他、合11件	
井の頭	5月12日	お待ちかね！ 井の頭自然文化園開園記念日イベント発表！
	6月2日	アムールヤマネコが生まれました
	7月28日	井の頭自然文化園開園80周年記念企画「まちのどうぶつえんめぐり」開催！
	9月22日	「ヤマネコ祭2022」を開催します
	1月12日	水生物館特設展示「変わりゆく井の頭池」を開催
	合計7件	

（２）苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ズーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービス等の改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望およびそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ズーネット」への掲載を行った。

〔6〕安全・安心の確保

来園者、職員の新型コロナウイルス感染防止対策及び飼育体制の維持に取り組むとともに、命を預かる現場としての安全確保や事故発生抑止、事業継続計画の推進、情報対策の強化等危機管理対策を拡充し、全職員の危機管理意識の向上に努めた。

また、令和元年8月に多摩動物公園において発生した職員の死亡事故については、令和2年度に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

（1）新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対策については、お客様に安心して来園していただけるよう、総務部と各園が連携を図りながら感染防止対策の徹底に努めた。

お客様に関する対策としては、事前予約制や滞留人数管理方式による入場制限を実施するとともに、入園前の検温、消毒の徹底、店舗での飛沫感染対策シート、アクリル板の設置、座席の間引き等の感染防止対策を行った。

また、職員に関する対策としては、手洗い、マスクの着用、手指消毒、黙食の徹底などの基本的な感染対策の徹底を図るとともに、テレワークや時差通勤の実施、WEB会議等を積極的に活用すること等により、クラスター等を発生させることなく、業務を継続して遂行することができた。

引き続き、これまでの対策を緩めることなく、協会をあげて新型コロナウイルス感染症対策を実施し、お客様及び職員の安全・安心の確保に向け取り組んでいく。

（2）動物事故再発防止対策

令和元年8月に多摩動物公園インドサイ舎において発生した飼育職員の死亡事故を受け、動物事故再発防止PTによる再発防止策として令和2年に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、危機管理委員会下にある「動物事故・感染症対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

【動物事故再発防止対策】

区分	対策	具体的内容
特定動物等のより安全な管理方法の構築	飼育管理のルール化	・種毎に危険度に応じたルールを設定し、同場に関するルールを定める。 ・飼育作業におけるリスクアセスメントを実施し、それを踏まえた「安全作業マニュアル」を作成する。
職員が安全に作業できる施設・設備の整備	物理的遮蔽	・管理通路にライン塗装し、通常の作業ではラインより動物舎側に立ち入らないこととする。 ・スクイーズケージや柵場の導入など、物理的遮蔽手段を検討する。
	職員の状況把握のための取り組み	・カメラによるモニターシステムを導入する。 ・複数の動物舎を担当する職員がどこで作業をしているか把握するための作業スケジュール表を作成する。
	非常時連絡システムの導入	・転倒時通報機能や音声発信機能を有したスマートウォッチを順次導入する。 ・既存のPHSに位置情報通知機能等を追加する。

職員の安全を確保するための取り組み及び体制の確立	作業時の安全確保体制	・インドサイ舎の飼育体制について、2名の担当者を置いた。 ・班の担当する飼育作業を共同で行う「グループ制」もしくはリスクの高い作業を抽出し、班の枠を超えた2～3名の職員が対応する「ユニット制」の導入を検討する。
	施設改修や補修の計画的実施	・毎年作成している施設改修の全体計画に、随時提出される個別の工事・作業依頼を反映させ、柔軟に施工準の見直しを行う。
	引継ぎの体系化	・引継ぎ書類の内容を統一化し、それぞれの動物種の課題・懸案事項を着実に引き継げる体制とする。
職員の安全意識の向上	職員の情報共有等の仕組み	・職員の作業予定や体調など、班員同士が情報共有を図るため「班ミーティング」を毎日決まった時間に実施する。
	ヒヤリ・ハット事例の収集と共有	・ヒヤリ・ハット事例の収集と共有のルールを策定し、事故防止に活用する仕組みを構築する。
	作業の安全性の客観的な検証	・飼育管理のルール化において実施する飼育作業のリスクアセスメントにおいて定めるリスク提言措置について、年に1回実施状況確認を行う。
	継続した安全意識の確保	・安全意識向上につながる研修を毎年実施する。 ・事故の発生した8月25日を「安全の日」と定め、黙とうや訓示を実施し、事故の記憶の風化を防止する。

今後も、上記「動物事故再発防止対策」の進捗状況について、危機管理委員会の下の「動物事故・感染症対策部会」に定期的に確認し、安全管理の徹底を図る。

(3) 事業継続 (BCP)

震災、テロ等の大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保やマニュアルを整備したほか、各種訓練の実施を通して災害対応力を向上させた。

また、令和4年度には、新任職員を対象とした配属時研修を新たに実施し、都立動物園・水族園における災害時対応の基本的な知識の定着を図るとともに、コロナ禍により実施できていなかった震災及びテロ対策の実地訓練を3年ぶりに実施し、災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認した。

訓練名	開催日	目 的
震災対策訓練 (第1回訓練)	葛 西：6/15 井の頭：7/11 総務部：10/17 上 野：12/12 多 摩：1/11	首都直下型地震の発生を想定し、災害対応力の向上を目的として実施 ・災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・消防等関連団体との連携強化
参集訓練	総務部・4園：11/18	参集経路の確認と参集者によるオンラインでの本部運営訓練を実施
テロ対策訓練 (第2回訓練)	葛 西：11/16 井の頭：2/13	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・サスマタ演習等初動対応の確認 ・警察等関連機関との連携強化

無線通信訓練	総務部・各園：毎月	災害対応力の向上を目的として実施
安否確認訓練	総務部・各園：4 半期 に 1 回	災害対応力の向上を目的として実施

(4) 災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

(5) 情報セキュリティ対策

マルウェア対策として、ネットワークから切り離れた環境にバックアップデータを保管しておくために大容量の NAS（ネットワーク対応 HDD）を導入した。また、業務でパソコンを使用する職員を対象に「情報セキュリティ自己点検」および「e ラーニング」を実施するとともに、専門業者による「情報セキュリティ外部監査」を井の頭自然文化園で実施した。

(6) 工事等安全衛生対策

上野労働基準監督署より講師を招いて講習会（オンライン）を行い、園内で工事や作業を行う指定店事業者の安全衛生対策の強化を促した。

講習項目： ・効果的な K Y ミーティングの実施について
・墜落・転落災害防止について
・熱中症防止対策について

参加者数：108社、126名

(7) 工事等事故防止対策

過去の事故事例を教訓に、園内作業における事故防止対策を積み重ねている。事故防止のため、協会職員と受注者が共通の安全管理意識を持って、組織的に安全対策に取り組んでいる。

また、危機管理委員会の下に置かれた、事故防止対策部会において、維持管理部門における安全管理の年間取組計画や重点管理目標を定め、定期的に進行管理を行うなど、各種の安全管理対策に取り組み、事故防止の徹底を図った。

主な対策等 ・受発注者の立ち合いによる安全対策の事前確認
・安全講習会への積極的な開催
・朝礼や終礼での K Y 活動等の強化
・担当外職員による注意喚起の制度化
・特記仕様書による事故防止対策指示の強化
・指定店契約時の意識啓発（安全管理計画等）
・事故の重大さに応じた契約解除や発注停止等の制度化
・熱中症防止対策の強化
・自動車事故防止対策の強化
・工事安全パトロールの実施（4 回）
・維持管理担当者向けの e ラーニングの実施
・ヒヤリハット事例集の作成・周知

(8) 園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を行っている。

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
上 野 動 物 園	- 敷地面積：144千㎡ - パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森 等 - 両生爬虫類館 - 管理センター - 不忍池	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 不忍池水質管理 - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他
多 摩 動 物 公 園	- 敷地面積：601千㎡（含む七生公園） - オランウータン舎、コアラ館等 - ライオン園 他 - 昆虫生態園 - 丘陵地	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
葛 西 臨 海 水 族 園	- 敷地面積：86千㎡ - 水槽数：47 - マグロ水槽（2,200t）、ペンギン池 他 - ポンプ（水処理用244台、給排水用53台）	- 設備補修（冷凍機、水処理 他） - 施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
井 の 頭 自 然 文 化 園	- 敷地面積：116千㎡ - 大放飼場 - 彫刻館 - リスの小径 - 資料館 - 水生物館	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、ナラ枯れ処理、ベンチ座板補修等の集中的な修繕を行った。

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
上 野	1	動物舎	西園パンダ舎屋外放飼場カウンター扉設置
	2	照明設備	東園無料休憩所 2F照明制御盤補修
	3	建物	カバ舎屋上防水補修
	4	工作物	ベンチ座板等補修
多 摩	1	照明設備	レッサーパンダ舎照明補修
	2	動物舎	アフリカゾウ舎油圧シリンダー補修
	3	放飼場	キリン舎サブパドック排水補修
	4	樹林	ナラ枯れ被害木処理（1,074本） 予防保全措置としての樹幹注入（1,846本）
葛 西	1	建物	空の広場手摺補修
	2	放飼場	ペンギン放飼場擬岩脱出防止柵ほか補修
	3	循環設備	各種設備補修
	4	工作物	ベンチ座板等補修
井の頭	1	動物舎	カピバラ舎仕切扉補修
	2	建物	正門バリアフリートイレ天窓補修
	3	工作物	ぶらんこ広場弓型シーソー更新
	4	樹林	支障木点検及び伐採等樹林地維持業務

（９）事件・事故対応

事件・事故の発生や対応、原因分析、再発予防策等について、グループウェアを活用して情報を迅速に共有し、適切な進行管理を行った。

〔 7 〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託

東京都からの受託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成や、中国側の保護資金の使用状況に関する調査や、子の返還輸送を実施した。

項 目	内 容
件 名	恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託
業 務 内 容	ジャイアントパンダの飼育、管理及び健康等の状況報告、研究協力プロジェクトの進展状況報告書の作成、中国側との連絡業務、子の返還輸送に係る業務。
期 間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日
委 託 金 額	142,700,000円
受 領 額	122,184,855円

2. 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託

例年実施している、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおけるトキの定期検診及び飼育指導は、感染拡大防止のため、令和4年度は実施しなかった。

項 目	内 容
件 名	特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に関する業務受託
業 務 内 容	① 特別天然記念物トキの飼育・管理指導 ② 特別天然記念物トキの定期健康診断 ③ 特別天然記念物トキの疾病時における専門的治療 ④ 特別天然記念物トキの人工増殖の指導 ⑤ トキ類縁種の研究飼育指導
期 間	実施なし
委 託 金 額	0円 ※新型コロナウイルス感染症への対応として出張は中止とし、契約は締結しなかった。

3. 多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定

東京都がスリランカ民主社会主義共和国から導入するスリランカゾウ2頭を、多摩動物公園に導入するための支援事業について都と協定を締結したが、スリランカ民主社会主義共和国内の情勢が安定せず、当該業務は遂行できなかった。

項 目	内 容
件 名	多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定
業 務 内 容	スリランカゾウの輸送、スリランカゾウ導入準備、スリランカゾウ公開式典の開催、報告書の作成。
期 間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日
委 託 金 額	167,299,000円
受 領 額	0円 ※履行に至らず。

4. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託

東京都大島支庁からの受託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務受託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日
委 託 金 額	52,030,000円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	2
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	3
		(6) コインロッカー	2
		(7) フォトサービス	1
		(8) 写真(映像資料)貸出	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	3
		(5) コインロッカー	2
		(6) フォトサービス	1
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 臨時売店	3
		(3) 自動販売機コーナー	3
II. その他事業	(1) 上野動物園内広告事業(広告施設9箇所)		
	(2) 協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ．事業実績

〔１〕 便益施設等の経営

収益事業においては、令和２年度及び３年度において新型コロナウイルス感染拡大防止のため、桜花期やゴールデンウィークを含む長期休園を余儀なくされたが、本年度は４園とも新型コロナウイルスによる臨時休園はなく、感染拡大防止のための入園制限は実施したものの、上限人数を段階的に引き上げた結果、営業成績は大幅に回復した。上野動物園では３年ぶりにシャンシャンの誕生日（令和４年６月１２日、５歳）の開園が実現した他、１２月にはシャンシャンの中国への返還日が令和５年２月２１日であることが発表され、シャンシャンとのお別れを惜しむ多くの方々により本来閑散期である１・２月が繁忙となった。上野動物園の収益は、前年度の約５.２億円から約２０.５億円と格段に改善し、４園合計での収益も効率的な店舗運営の成果もあり、大幅な増収・増益となった。

園内販売は順調に回復したが、再度の臨時休園などのケースにも備え、京王百貨店新宿店、上野駅エキュート、上野公園パークス、葛西臨海公園駅の高架下商業施設「Ff」など、園外販売は継続した。

また、新たな試みとして「シャンシャンカスタムフォトブック」など、通信販売システムと連動した在庫を持たない受注生産方式の商品販売も行った。

４園のギフトショップでは、ショッピングバッグの使用量削減を目的に、２月１日より手提げ袋を有料化した。

上野動物園では、開園１４０周年やジャイアントパンダ来園５０周年記念事業、ジャイアントパンダの双子「シャオシャオ・レイレイ」や、中国に返還される「シャンシャン」の記念商品やメニューを展開した。

多摩動物公園では、企画展や動物の赤ちゃん誕生に関連した商品やメニュー、飼育係考案のデザートドリンクを販売するなど、新たな試みで話題を集めたが、園内での高病原性鳥インフルエンザの発生により、令和５年２月１６日より年度内は臨時休園となった。

葛西臨海水族園では、持続可能な水産業を支援する取組として、「海のエコラベル」と言われるMSCやASCのCoC認証を７月に取得し、サステナブル・シーフードを使用したメニューの提供を始めた。

井の頭自然文化園では、ツシマヤマネコ保全の取組と連携し、長崎県対馬産の原材料を使用したヤマネコエールを発売したほか、開園８０周年を記念したギフト及びフードメニューを展開した。

※園外販売の状況

区分	出店箇所等	売上高
外部出店	京王百貨店新宿店	６６７千円
委託販売	そごう大宮店、BOOK COMPASSエキュート上野店、松坂屋上野店、Ff（葛西臨海公園内）、東武宇都宮百貨店大田原店	４,６８１千円
卸販売	上野案内所売店（東京都公園協会）、BOOK COMPASSエキュート上野店	５,４２２千円
受注生産販売	シャンシャンデジタルフォトブック①、シャンシャンデジタルフォトブック②、シャンシャン両面ポスター	３８,９４７千円

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
上 野 動 物 園	1. 1号売店（店名：リトルトランク） 2. 2号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 飲食店第1号（店名：さるやまキッチン） 5. 飲食店第2号 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真（映像資料）貸出 12. その他（通信販売事業を含む）	2,068,227 （この内、通販 は90,369）
多 摩 動 物 公 園	1. 1号売店（店名：コアラ館下売店） 2. 2号売店（店名：ライオンカフェ） 3. 3号売店（店名：コレクション） 4. 4号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（店名：サバンナキッチン） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	533,054
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウインド） 4. 臨時売店 5. 自動販売機コーナー 6. コインロッカー 7. フォトサービス 8. その他	585,108

井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	109,690
合 計		3,296,079

2. 商品取扱状況

（単位：点）

区 分		上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		981	1,120	1,428	200
内 訳	ギフトその他	868	1,013	1,311	153
	飲 食 品	113	107	117	47

〔２〕その他の事業

１．上野動物園内広告事業

上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、ヒガシクロサイ、アジアゾウ、ニシゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	８基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	１基
収 入 額	3,132 千円	

２．協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内普及啓発ボードによる協賛や園外でのロゴマーク協賛を実施した。

収 入 額	10,522 千円
-------	-----------

第4 決 算 概 要（正味財産増減計算書）

（単位：千円）

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
基本財産運用益	2,445	—	3,877	6,322
特定資産運用益	2	—	—	2
受取会費	9,450	—	—	9,450
事業収益	158,189	3,309,734	—	3,467,923
受取寄付金	23,011	—	—	23,011
受取委託料	6,630,952	—	199,920	6,830,872
雑収益	14,076	26,809	54	40,938
経常収益計	6,838,126	3,336,543	203,850	10,378,519
（2）経常費用				
事業費	6,998,305	2,797,378	—	9,795,682
管理費	—	—	268,939	268,939
経常費用計	6,998,305	2,797,378	268,939	10,064,621
評価損益等	0	△9,640	0	△9,640
当期経常増減額	△160,179	529,525	△65,089	304,258
2. 経常外増減の部				
経常外収益	0	7,632	0	7,632
経常外費用	0	8,329	0	8,329
当期経常外増減額	0	△697	0	△697
他会計振替額	238,049	△300,420	62,371	0
税引前当期一般正味財産額	77,870	228,409	△2,717	303,561
法人税等	—	220	—	220
法人税等調整額	—	4,429	—	4,429
当期一般正味財産増減額	77,870	223,759	△2,717	298,912
一般正味財産期首残高	73,664	585,441	310,484	969,589
一般正味財産期末残高	151,534	809,200	307,767	1,268,500
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	32,376	0	0	32,376
一般正味財産への振替額	23,011	0	0	23,011
当期指定正味財産増減額	9,365	0	0	9,365
指定正味財産期首残高	239,819	0	0	239,819
指定正味財産期末残高	249,185	0	0	249,185
III 正味財産期末残高	400,718	809,200	307,767	1,517,685

第5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月24日	(1) 理事の選任について (2) 監事の選任について
第1回 定時評議員会 (オンライン)	6月29日	(1) 令和3年度決算報告(案)について 監査報告 (2) 理事・監事の選任について (報告事項) 令和3年度事業報告について
書面決議	2月14日	(1) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (2) 常勤理事の報酬総額の変更について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月6日	(1) 評議員候補者の推薦について (2) 評議員会の開催について
第1回 定時理事会 (オンライン)	6月14日	(1) 令和3年度事業報告(案)について (2) 令和3年度決算報告(案)について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (4) 評議員選定委員の選任について (5) 安全衛生管理規程の改正について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	6月29日	(1) 理事長の選定について (2) 常務理事の選定について
書面決議	1月31日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	2月28日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について
第2回 定時理事会 (オンライン)	3月27日	(1) 令和5年度事業計画(案)について (2) 令和5年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 役員賠償責任保険の加入について (5) 諸規程の一部改正について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告

回	開催月日	議 題
		(報告事項)「地球環境保全行動戦略」の策定について (報告事項)多摩動物公園で発生した高病原性鳥インフルエンザについて

〔3〕評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回 (オンライン)	5月16日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について (2) 評議員の選任について
第2回 (オンライン)	12月7日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について

Ⅱ. 監 査

〔1〕京橋監査法人と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕令和3年度の事業報告及び決算報告について、5月30日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔１〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
評 議 員	副 島 建	５月17日	東京都建設局次長
〃	竹 内 伸 子	６月29日	絵手紙作家
〃	村 松 真 貴 子	６月29日	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団理事長
〃	平 井 純 子	６月29日	駿河台大学スポーツ科学部教授
〃	里 吉 ゆ み	12月13日	東京都議会環境・建設委員長

② 評議員の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
評 議 員	高 橋 茅 香 子	６月29日	翻訳家
〃	松 島 ト モ 子	６月29日	俳優
〃	海老名香葉子	６月29日	エッセイスト
〃	曾 根 は じ め	10月 7 日	東京都議会環境・建設委員長
〃	副 島 建	３月31日	東京都建設局次長
〃	佐 藤 伸 朗	３月31日	公益財団法人東京都公園協会理事長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
理 事	小 谷 健	５月25日	東京都建設局公園緑地部長
監 事	浅 野 直 樹	５月25日	東京都建設局総務部長

④ 理事・監事の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
理 事	小 谷 健	３月31日	東京都建設局公園緑地部長

〔2〕役員等名簿（令和5年3月31日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

○会 長 貫 洞 哲 夫

（1）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館顧問
2	内 山 晟	動物写真家
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
5	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
6	林 公 義	皇居内生物学研究所
7	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
8	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
9	竹 内 伸 子	絵手紙作家
10	村 松 真 貴 子	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団理事長
11	平 井 純 子	駿河台大学スポーツ科学部教授
12	里 吉 ゆ み	東京都議会環境・建設委員長
13	副 島 建	東京都建設局次長
14	大 道 和 彦	東京都東部公園緑地事務所長
15	細 川 卓 巳	東京都西部公園緑地事務所長
16	佐 藤 伸 朗	公益財団法人東京都公園協会理事長

(2) 評議員選定委員会

No.	氏 名	摘 要
1	清 水 眞 澄	成城大学名誉教授、三井記念美術館館長
2	会 田 保 彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	須 賀 光 一	上野のれん会会長
5	鈴 木 直 也	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏 名	摘 要
1	理 事 長	今 村 保 雄	元東京都建設局次長
2	常 務 理 事	笥 直	前東京都環境局環境改善部長
3	常 務 理 事	松 山 俊 樹	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理 事	菅 谷 博	茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	見 城 美 枝子	青森大学名誉教授、エッセイスト
6	〃	長 谷 川 寿 一	東京大学名誉教授
7	〃	西 源 二 郎	東海大学海洋学部客員教授
8	〃	加 藤 勉	京王電鉄株式会社特別顧問
9	〃	鷺 谷 いづみ	東京大学名誉教授
10	〃	村 井 良 子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
11	〃	尾 崎 清 明	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
12	〃	小 谷 健	東京都建設局公園緑地部長
1	監 事	須 賀 光 一	上野のれん会会長
2	〃	半 田 昌 之	公益財団法人日本博物館協会専務理事
3	〃	浅 野 直 樹	東京都建設局総務部長

(4) 顧問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	石 内 展 行	元財団法人東京動物園協会理事長
3	齋 藤 勝	元財団法人東京動物園協会理事長
4	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
5	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
6	羽 仁 進	映画監督・評論家

(6) 正会員

〔賛助会員〕 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一 関 斎
 〔特別会員〕 篠 永 哲

IV. 組織概要

〔1〕協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

○ 会 長 貫 洞 哲 夫

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	16 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	12 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	2 名	
	事 務 局	4 部 14 課 49 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	6 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	4 名	
	特 別 会 員	1 名	
	準 会 員	4,103 名	東京動物園友の会会員

(令和5年3月31日現在)

【事務局】



〔 3 〕 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
231	139	370	94	0	94	325	139	464

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

